

潮 陵

発行日 平成31年3月(年1回発行)
発行元 東京潮陵樽中会
事務局 浦安市日の出1-3-22-406
南澤孝夫 方
Tel 080-5498-8305
e-mail info@choryo.org
HP <http://www.choryo.org/>

会報15号

会長挨拶 「変わる事と変えてはならない事」

先日、LA(米国)の兄と久しぶりに、顔を突き合わせて、1 時間ほど話した。互いの家族のこと、自分たちの老後や墓の事、65 歳から通い始めた、都立の産業技術大学院の事、これまで知的層が世界のリーダーの体裁を保ってきたが、黒人が大統領に・その次女性大統領、もう我慢できない、俺たちの本音で行こうとトランプのわかりやすい、俺たちを代弁している！米国の本音、など。

40 年前電話で話したら、¥万超え、ビクビクしていたのに、今日は、顔を互いに見て、face book Messenger でタダ！？ 軍事技術がベースのインフラ整備のおかげであるが、子供のころの夢がかなった社会になっている。子供のころ留辺蘂では、集落に1台の電話→家庭に1台→→携帯電話(ショルダーフォン)→小型化→小型化→スマート・フォン→みんなが持つ時代へ。待ち合わせには便利だけど、仕事でクオリティのアップはしているだろうか？ 人と人との関係性は、密になったのか？ かえって粗になったのではないのか？ 確かに便利にはなったが、自分の自宅の電話番号も検索してしまう。それでも未だに、台風で死者が出る？

1980 年ごろから「PC の導入」: 当時は、活字の様と評価されたが、今やそれが標準に。気付くと、漢字を全く書けなくなっている。「コンピュータ支援設計(CAD)の導入」: 導入時は、プリント時も CAD が別に必要、徹夜で何日もかかり出力した。「レーザープリンター導入」: 青焼きもなくなり、図面訂正もなくなり、見習いスタッフが少しずつ減少し、設計事務所の人数は減少し続け、アトリエ事務所は 1 人個人事務所がほとんどに成っている。個人レベルでは、案件も少なく、ナレッジのレベルが上がらない。見習いもないので、学ぶ場所が無い。いつの間にか教育力が低下。

昔は、政府刊行物書店で白書を購入し統計資料をまとめ、大宅壮一文庫に行き、過去の問題事件の検証など、見つける技術が必要だった。現代はネット検索、大切な時代の資料はデジタル情報が無く出てこない、必然的にオミットされた。「調べる・比べる・並べる」お家芸も、自分で見つける力もどこで学ぶのだろう？

どんどん変わっていく、便利の功罪、何を残して、何は無くなってもしょうがないのか？

さて、東京潮陵樽中会も代々リレーし続け、悩み悩み次にバトンを手渡す時期に来了。同窓会を継続していく事は、とても難しい時代に来ている。皆様のご協力で出来た事は、

- ① これまであまり会には関りが無い人も、母校の在校生へエールを送る OBOG はたくさん存在することが確認できた。
 - ② 亀石弁護士のおかげで、いまだ健在の「むしろ旗」からの潮陵の反骨精神も確認できた。
- そして、
- ③ 具体的に母校に関わる事の意味と熱意も確認できた。

そんな事を共有できるこの会を継続していく事は、どんなに時代が変化しても変えてはいけな事と確信し、次にリレーいたします。



東京潮陵樽中会会長
佐々島 宏 (65 期)

「自分が選んだことに責任を持てるのか？」潮陵高校3年の春、看護学校への進学に反対した父から言われた言葉です。医療機関で目にする当時の看護婦像は、病院や診療所に住み込み、医師の手伝いだけでなく家事の一端をも担う姿でした。「高校を卒業して、なんでそんな道を選択するのか？」というのが両親の反対の理由でした。高校卒業後に3年間学び、国家試験を受けて「看護婦免許」を得ることを何度も説明しました。

実は、高校受験の時、『看護婦になるためには潮陵で学んで、進学する』と思っていました。それは漠然としたもので、将来の道を両親に話すことはありませんでした。病気で苦しんでいる人の役に立ちたい、経済的にも自立したい、という両方の願いを叶えるための進学希望でした。【自己の選択に責任を持つ】父との約束が、今につながっていると思います。

看護婦免許(2002年に「看護師」と名称が変更されましたが、私の免許証は「看護婦免許証」です)を手にして半世紀が過ぎました。今まで、臨床で成人看護と小児看護を15年、看護行政に約5年、看護教員を16年、看護協会(専門職団体)役員として7年、退職後に大学病院と教育機関が主催する団体の非常勤職員として7年勤務してきました。これほど多様な分野で看護師として働く機会を与えられたことに、あらためて感謝の気持ちが湧いてきます。

【看護には直接看護と間接看護がある】と気づいたのは、看護行政の場に転勤になった時でした。臨床看護一筋に歩んできた私に、転勤の命令がありました。何をすればよいのか、と悩みました。看護師の免許を持った公務員としてできることは、臨床で患者と直接関わっている看護師が仕事しやすいようにすること、つまり【間接看護】でした。

看護は、主に病気で身体的・精神的・社会的に辛さを感じておられる方やその家族の方が、その辛さが少しでも軽くなったと感じていただけることを目指して行われる営みです。それが【直接看護】であり、それを支えるのが【間接看護】と理解したのです。

短期大学から教員の話がもたらされた時も、それまでに培った小児看護の技を伝えるのが私の役割、

と考えました。素人の学生が看護師の卵になって巣立っていく、その過程に関わるのが看護教員としての役割と。

在学中に、「潮陵スピリッツ」という言葉を何度も耳にしました。spirit は「精神・根性・霊・感情・信念」のことで「人の生命そのものに働きかける精神」のことです。振りかえると、私は「潮陵スピリッツ」を「自分の中に築かれた確固たる何か」と解釈していたようです。

臨床看護から看護行政、さらに看護教育と担当する分野を変える時、「自分の中に成し遂げる力があると認めてくれた方に伝えたい」という気持ちがありました。「できるだろうか」と疑問を抱くのではなく、「できると捉えてくれた存在」を信じたのです。この「信頼」は、まさしく「潮陵スピリッツ」だったのだと思います。

半世紀前の日本社会は、今よりももっと「男尊女卑」が強い時代でした。戦争直後に生まれた私の幼少期は、それまでの価値観が転換を始めた機運に満ちていましたが、家庭科を学ぶのは女生徒だけという時代でした。「女性は男に従い、家の中の事をする」という古い価値観が教育行政にも反映されていました。そのような考え方に納得できなかった私は、潮陵で学んだ時期に「社会人として、自ら経済力をもち自立したい」と考えるようになっていました。

〈後輩の皆様へ〉

何かをなすための方法として、「問題解決」という言葉を耳にしたことがあると思います。就職後の研修で、多くの企業が研修として採り入れていると聞きます。それは、情報収集・分析・判断・計画・実施・評価・情報収集・分析…と繰り返し、問題を解決するという手法です。昨今、世界の子どもの学力比較で日本の教育上の問題が指摘され、「暗記力から問題解決力へ」と言われるようになりました。

看護教育では早くからこの考え方を「看護過程」として採り入れてきました。看護の技で、「生・老・病・死」の辛さを少しでも和らげられるにはどうしたらよいか、という課題を解決するために使われています。解決すべき課題に関する情報を集め、情報と情報

を突き合わせて分析し、課題解決の道筋を熟慮し、方法を想起して判断(決定)する。具体的な方法(場所・場面・時期・手順など)を設定しながら計画し、実行に移す。実践した結果が課題を達成したか、方法は適切であったかなどを評価し、新たに発生した情報をもとに、さらに課題に取り組むという連綿と続く問題解決への過程です。

在校生の皆さんは、これから「成人」を迎えられます。「成人」とは、どのような人のことでしょう。「選挙権がある」「社会で働き収入を得る」「自分で様々なことを決めてできる」「自分の行動に全責任を負う」

など、さまざまな姿があります。社会で生きるとき、私たちは様々な選択や課題を解決することが求められます。進学、就職、伴侶の選択、選挙など将来に対する選択だけでなく、毎日の衣・食・住も選択の対象です。人生100年時代を生き切るためにも、さまざまな課題に出会う際に「問題解決」の考え方を活用し、自分の選択に責任をもつ力を養うことをお勧めします。



寄稿 人生を振り返って..... “好きな事を自分の力に!!”

山口(旧姓 芦野)緑 67期

東京潮陵樽中会 創立60周年記念号の特別企画として 卒業生たちのその後の人生の中で 失敗や成功の経験談をアンケートを通して回答して欲しいというアンケート調査にお答えしたところ、事務局長の南澤様よりもう少し詳しい内容で寄稿して頂けないかとご依頼があり、快諾致しました。

そうそうたる諸先輩方が 沢山いらっしゃる中で大変恐縮ではございますが、私の潮陵高校時代の3年間と これまでの人生を振り返ってみたいと思います。

私は、量徳小学校から 住吉中学校、そして潮陵高校へと進学しました。

小学生の頃、初めて我が家にやって来たテレビに夢中になり、特にアメリカのドラマが大好きでした。

そのドラマの中で繰り広げられるアメリカ人の恋愛模様や生活様式、その全てが新鮮で 憧れの的 もし英語を勉強して話せるようになったら私もあのドラマの中のアメリカ人のような生活が送れるかもしれないと思い込み 中学から始まる英語教育を楽しみにしていました。

高校に入学しても 私の英語熱は冷めず 英会話の出来る場所を探し回り、汐見台の教会の日曜学校に通ったり、オーストラリアから交換留学生を受け入れた友人の家には よく遊びに行った記憶があります。

家族や友人にはもちろんのこと いろいろな人に英会話を学びたいと話していたことが功を奏し、高校2年生の冬休みに 当時千歳にあった米空軍基地 通

称クマ基地の中にある司令官のお宅に ホームステイが出来ることになりました。

冬休みが始まった翌日、私は不安を胸に ボストンバッグを一つ下げて 千歳の中央バスターミナルで迎える車を待っていました。すると 小樽では見たことのないような大きな外国の車が1台、私の目の前に止まり、中から日本人の男性運転手さんが降りて来られました。

「芦野 緑さんですね。司令官ご夫妻が、お待ちしております。」と 私に話しかけました。

厳しい検問を通り 基地の中に入ると そこはもう別世界、幼い頃から憧れていたアメリカのように感じられました。

司令官の ポール G スミスさんは、アメリカのネブラスカ州の出身で、美しく品のある奥様のジェーン夫人との間に 3人の息子さんがいらっしゃいました。長男のジェームズは私と同年、次男のスティーブ、三男のフィリップは まだ小学生でした。

基地の中には 教会、映画館、ボーリング場、スロットマシンなどがある娯楽施設、射撃場、メスホールと呼ばれていた大きな食堂があり、日曜日のお昼は教会の後で みんなでステーキを食べに行くのが習慣になっていました。

私たちはいつも一緒に時を過ごし 友達の家遊びに行ったり、ゲームをしたり、スキーにも出かけました。私が 少しでもしょんぼりしているとWhat's wrong?と 優しく声を掛けてくれたのを今でも思い出します。

週末になると 司令官のお宅には沢山のお客様がいらっしゃいました。私が驚いたのは、お客様は 男性だけではなく必ずご夫婦だったこと、話題がアメリカの大統領選挙のことになると 夫と妻の意見が異なり大激論、家の中の大切なことは全て父が決めていた小樽の我が家との違いは大きなものでした。

女性でも自分の意見をしっかり持ち 自由に物が言える、男性も女性の話に耳を傾け一人一人が独立している、そんな印象を受けました。

クリスマスは盛大に行われ、私にまでアメリカから取り寄せたオルゴール付の宝石箱が用意されていて大感激、その宝石箱は今でも私の大切な宝物になっています。

お正月は おせちもお雑煮もなく いつものように朝はトーストとフライドエッグで ひっそりと静かに過ごしました。

約3週間のホームステイを終える頃になると自分のことや日々の出来事を 少しずつ英語で話せるようになり 英語でコミュニケーションが出来る喜びも感じていました。

将来は 英語を生かせる仕事につきたいと 夢を膨らませ、何の縁もゆかりもない 一人の日本人高校生を快くホームステイさせてくださった 司令官一家に心から感謝しました。

高校3年生になると、私は東京の大学に進んで 以前から興味があった比較文化を学びたいという夢を持ち、積極的に大学入試の模擬試験を受け受験に備えますが 父親が病気だったこともあり、大学に進学することを諦めました。

挫折という言葉があてはまるかどうかは 分かりませんが、これから先 どうやって生きていこうかと悩む日々もありました。そして1つの目標は失ったけれどまた違った別の人生が開けるかもしれないと考えるようになりました。 病気の父や 父を介護しながら懸命に働く母、いつも心の支えとなってくれた姉と兄、潮陵高校の3年間を下宿させてくれた今でも母のように慕う叔母とその家族、常に私のそばにいてくれた最愛の祖母を 失望させてはいけけない 英語が生かして女性が自立し一人でも生きていける職業は何か？と考えて 国際線のあった日本航空の入社試験を受けることにしました。

日本航空で培ったもの

3月に卒業式を終え、4月に上京 5月に日本航空に入社し 約5か月間 羽田の訓練センターに通う生活が始まりました。一人前の国際線の客室乗務員になるためには 英会話は勿論のこと ファーストクラスのミールサービス、お客様のご要望にお応えしてバーカウンターでカクテルを作ったり、ワインやチーズの知識も必要で 1日おきに試験があり 毎晩 寮に帰ると必死に勉強して 朝起きて また訓練センターに通うという日々が続きました。非常事態の訓練には多くの時間を費やし、機内で起こりうる全ての事に対処出来るように First AidやBaby Careなどを学び 機内アナウンス、歩き方のレッスン、狭いトイレの中で短時間で着物を着る試験もありました。

長い訓練期間を無事に終え 初めてのフライトはサンフランシスコでした。時差で眠い目をこすりながら 初めて見るゴールデンゲートブリッジ、坂の街、花の都サンフランシスコは どこか故郷の小樽を思い出させてくれる素敵な街でした。

初フライトのサンフランシスコから ラストフライトのシドニーまで 約9年間 まさに世界中を飛び回り、当時観光ではなかなか行かなかった カラチやテヘランモスクワにも数日間 滞在することもありました。

世界の街角で私が見たもの、感じたことは たとえ国が違い 言語や文化、食べ物や生活習慣が違っていても、そこに暮らしている人たちは皆 愛し合い 助け合って 子供を育て家族や友人たちの幸せを願って 一生懸命生きているということでした。

自分に出来ることは何か？

結婚して家庭に入り子供を育てながらも 何か自分に出来ることはないかと 模索する日々が続きました。夫の友人から簡単な翻訳の仕事を頼まれたことをきっかけに もう一度英語と日本語に向き合うこととなり、都内の広告会社の国際部の仕事を引き受けるようになりました。

40歳の時に 高校時代 果たせなかった大学で学びたいという思いが募り、科目等履修生として学習院大学英米文学科に3年間、通いました。教授は同年代のイギリス人女性で授業は全て英語、帰国子女も多く たまたまJALの同期の御嬢さんも同じクラスでまさに親子ほど年の違う生徒たちと共に学びました。

ちょうどそのころ ビジネスマナーを教えて欲しいと千葉県内の専門学校から要請があり、月曜と水曜はマナー講師、火曜と木曜は 学生という 充実した日々を過ごしました。

日本の伝統文化を世界へ

2001年、9月 世界を震撼させたアメリカの同時多発テロの直後 夫が勤めていた航空会社が経営破たん、長男が大学1年生、次男はまだ高校生でした。

サラリーマンの妻として定年後はのんびり過ごそうと思っていたので まさか自分が起業して会社を経営することになるとは 夢にも思っていませんでした。

ビジネスマナーを教える会社、英語の塾、海外に友人も多かったので海外の商品を日本に輸入する会社など ろいろ考えましたが、既に同じような会社も沢山あり、自分に何が出来るかを考えたとき、着物や帯の美しさを海外に紹介し 日本の伝統文化を世界に発信する仕事をしてみたいと決心、株式会社みどりインターナショナルを設立しました。

人に恵まれ、人材にも恵まれ 運にも恵まれて、現在 成田国際空港、千歳国際空港、関西国際空港の免税店内民芸品コーナーに みどり帯アーツというブランド名で出店、英語の出来るスタッフが店頭で接客販売しています。スタッフの中にはJALの後輩たちも多く勤務しており、毎日飛行機を見ながら 空港という慣れ親しんだ場所で 日本製にこだわって製作した商品を販売しており、小樽にも沢山の職人さん達がいて着物をリメイクしたオリジナル商品を作っていたいております。

在校生の皆さんへ

今、皆さんの最大の関心事は 将来 どの大学に入って 何を学ぶか？ということなのかもしれませんが、どの大学で何を学ぶかよりも自分が身に着けた知識や技術を 社会に出てどう生かすのか？ ということの方が もっと重要なことのように思えます。

努力して身に着けた知識や経験は 一生の財産になります。

たとえ自分の思い通りにならないことがあっても あきらめないこと、努力を惜しまないこと、打たれ強くなってください。そして 皆さんの努力が報われる社会であって欲しいと心から 願います。

最後に

若さとは 失って初めて気が付くものなのかもしれませんが、皆さんは今、その若さ溢れる青春真っ只中にいます。私も 今から45年前は 潮陵生でした。当時、気になっていた男子と 部活が終わるころに 昇降口で待ち合わせをして 一緒に潮陵の坂道を歩いて帰り、喫茶店で珈琲を飲んだ思い出があります。

今のように 携帯もスマホもない時代、どうやって待ち合わせの約束をしたのか、きっとお互いに必死だったんだろうなあと思うと 微笑ましくなります。

小樽に生まれ、蒼い海と 緑の山々に囲まれて育ち、40年近く千葉県に暮らす今も 私の故郷は小樽だと思っています。

かけがえのない 貴重な高校の3年間を大切に 思いっきり楽しんで 勉強にも励んでください。

50年後の世界を見ることが出来る皆さんに 嫉妬しています…笑。



飛び始めた頃 お客様と一緒に

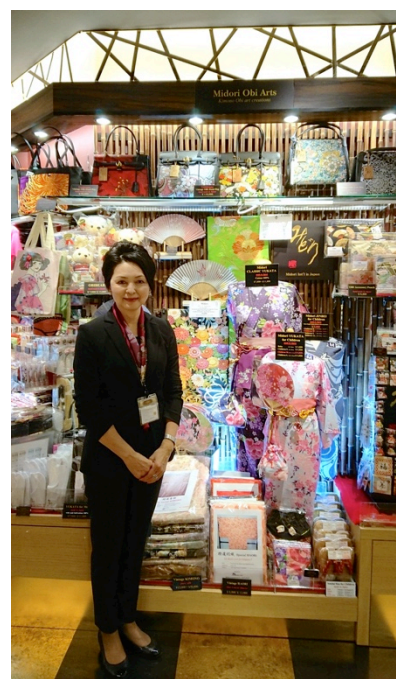


1981年頃 PR スチュワーデスとしてローマにて





1981 年頃 PR スチュワーデスとしてローマにて



現在 成田国際空港第2旅客ターミナル
制限区域内店頭にて

寄稿 ♪ 音楽人生続行中 ♪

福井(旧姓 上元)早枝子 65 期

先日、県立がんセンター緩和ケア病棟(ホスピス)のクリスマスミニコンサートがありました。

屋上庭園に面して、クリスマスの飾り付けをした明るい空間にキーボードと椅子。

患者さん、ご家族、看護師さん、病棟ボランティアなどが集まりました。

ベッドごと出てこられる方々、そして車椅子の方々、電子機器で薬をコントロールされているらしく・・・皆さん電源コードが必要です。

看護師さんや病棟ボランティアはサンタクロースの帽子をかぶり、トナカイの恰好をしているナースも。

カッチーニの“Ave Maria”でコンサートは始まり、“冬の童謡唱歌メドレー”は皆さん口ずさみ、看護師さんたちのリコーダーと鈴の演奏とダンス、“諸人こぞりて”を皆で歌い、20分ほどでコンサートは終了しました。

クリスマスには毎年、ボランティア・看護師・時には医師も一緒に趣向をこらし楽しい時間を演出します。そのお手伝いに音楽ボランティアとして、ひととき病気を、辛い時間を紛わせていただければと思い、歌い・弾いています。

コンサート終了後、Background musicにクリスマスソングを弾いている間に、車椅子やベッドが一台ずつ病室にもどって行きました。

最後に移動中のベッドから男性が静かに手を振りました。

私も手を振り返しましたが、胸が痛くなりました。

「私の手と足と声と心をお使いください」という信念のボランティア会で音楽ボランティアとして活動し始めてもうすぐ19年目を迎えます。

病院ボランティアとして朗読や移動図書・病棟・受付案内などで活動していた会が、音楽を始めるということで、お手伝いすることになりました。

ロビーでのミニコンサートが開始され、だんだん他の病院にも広がっていきました。

そのうちロビーにまで出て来られない患者さんの為、病棟でのコンサートも行われるようになりました。

エアーシャワーを浴び、帽子と白衣をつけ、病棟専用のスリッパに履き替え、消毒済みの楽器でのコンサート。

また、病室前の屋外でガラス越しの演奏、マイクで音を拾い、病室内のスピーカーで流す・・・など、病院スタッフと病棟ボランティアの患者さんへの想いに本当に感心しておりました。

10年前から小児病棟での音楽が始まりました。

辛い治療に、頑張って色々我慢している子供たちのために何とか楽しい時間にしようと、動物やアンパンマンとその仲間たち、ドラえもんなどのボードやペープサートを作り、ミュージックベル・カスタネット・マラカスなど小物楽器を配り、少しでも参加できるように曲目や構成を工夫します。

生まれてから一度も病院の外に出たことがない子が院内学級の小学校に入学しました。

学校に通ったり遊んだりできることのすばらしさ・・・“元気”という貴重さを痛感します。

私たちはふつうに生きることができる、あたりまえに生きていることに感謝し、やりたいことを目標にすることはもちろん、今やりたくないことや興味のないと思うことでも、自分や他の人のためになることがあると感じます。

いつか役にたつ・・・！

私は小さい頃から、音楽教育や合唱指揮などに携わっていた父の影響で、音楽が身近にありピアノを習い、教育学部の音楽科でピアノを専攻しました。

大学からは声楽も習い、現在は声楽でのコンサート出演が多い一方で、弾き語りでの演奏や他の楽器とのアンサンブルもしています。

音楽を勉強したことと、指揮の父のお蔭もあり、海外への演奏旅行に行く機会にも恵まれ、ソ連やカナダでのコンサートにもピアノ伴奏者として参加しました。

そして、子連れで参加したアメリカ公演では、なかなか入ることが出来そうもない国連総会議場でのコンサートで、全道から募集した道民合唱団とソリストとして共演。

さらにボストンシンフォニーホールでは、道民合唱団と地元の合唱団そして地元のオーケストラとも共演という素晴らしいステージで、カンタータのソリストとして歌い、私の音楽人生でも大きな大きな出来事で、ファンタスティックでエキサイティングな経験となりました。

病院のみならずさまざまなコミュニティでも活動・演奏するなか、いつも何かしら迷いながら、特に歌詞については聴く方々が不安や不快な思いをされないよう気を配りながらプログラムを組んでいます。

病棟で話しかけても表情も声も反応を示さない患者さんが、音楽の時に歌をうたい病院スタッフが驚いたという連絡を頂いたり、手術前の患者さんから勇気が出ましたとの言葉を頂いたり、笑顔を見せてくれた子供たちからもたくさんの力を頂いて、迷いながらも続けてこられました。

音楽で、私で、役に立つことがあれば、私の声を心を使って下さい・・・

今日は来月何う病院と老健のプログラムを考え中。

さあ、もう提出しなければ・・・！



第1回 地域コンサート 2018.9.20 白根学園



ミニコンサート(800回記念)
2018.2.22 神奈川県立がんセンター

私は小樽で生まれて、結婚をして藤沢に住んでいます。

小樽の街は山と海があり、坂が多く、何処を歩いても魅力的な景色に出会います。絵を描く人もたくさんいて、絵を飾る文化が根付いていました。私が絵を好きになったのは、小樽の環境が良かったのだと思います。

私は高校時代から森本三郎先生に師事しました。

森本先生もとても小樽を愛していました。小樽の雪景色を優しく静かにとても魅力的に描いていました。絵の基礎は森本先生に教えていただきました。森本先生のアトリエで、静かに絵を描いている時間が好きでした。

藤沢に移ってからは、宮原青子先生に師事しています。

宮原先生からは、絵画を取り巻く総合的な世界、文法的な知識など幅広く教わっています。宮原先生は自分の心の世界、精神的な世界を哲学的に描いています。アトリエで、色々な画家の話や展覧会の事など、絵を描く仲間と話す時間はとても楽しいです。

私は30年ほど前に宮原先生から精神障害者に絵を教えるボランティアを紹介してもらいました。今でも毎週、精神科のデイケアで絵の指導をしています。多くの方々の描く絵を通して私もまた学んでいます。

藤沢は東海道の宿場町です。江の島や富士山など、浮世絵の世界が広がっています。季節によって異なる空の色や富士を眺めながら、大好きな北斎や広重の浮世絵を身近に感じています。

夫がアメリカに単身で駐在している時に、アートスクールの夏期講習に通いました。英語は苦手な私でしたが、絵画の制作は楽しんで授業を受けることができ

ました。宗教画などは詳しい決まり事があってそれを理解しながら観ると、また一段と理解が深まると思いますが、詳しい知識がなくても、見るだけでも私は十分楽しむ事ができます。絵の世界は言葉が分からなくても画面から感じる事があれば良いと思っているからです。

そして 美術館を訪れる事は私の大きな楽しみです。

アメリカで夫とドライブ旅行をしながらアリゾナ州のジョージアオキーフのアトリエと住んでいた家を訪ねた事があります。それまではオキーフは抽象的な世界だと思っていましたが、独特な山の形や乾いた土地の感じが、オキーフの描いた絵と同じでした。オキーフが、今私の見ているこの景色を描いていたと思うと感動で胸がいっぱいになりました。

それからはペンシルバニア州のアンドリューワイエスの美術館を訪ねたり、アメリカの地方の小さな美術館にもたくさん行きました。帰国してからも夫が休暇の度に、メイン州のワイエスが描いたオルソンハウスや、ニューイングランド州のエドワードホッパーが描いた灯台などを訪ねました。その景色は強く心に残っています。

画家の描いた世界を体験する旅行はとても刺激的でした。何気ない日常の風景が、画家によって切り取られ、特別でドラマチックな世界に変わります。私は画家が実際に描いた同じ場所に立って、画家がこの景色に何を感じて制作したのかを想像しながら、絵の世界を楽しんでいます。

私は絵を通してたくさんの方々と出会いました。そしてその出会いは私の人生をととても豊かにしてくれています。



作品
フルーツ



作品
ザクロ



作品
アマリス



東京展の作品の前で



メイン州のアンドリュー・ワイエスが
描いたオルソンハウス



バーモント州のターシャ・テューダー
ミュージアムでスタッフの方と一緒に



メイン州のエドワード・ホッパーが描いた
オーガンクイットの海を見る



K.itoya 個展にて

1. プロローグ

東京潮陵樽中会の南澤事務局長からお声が掛り、この度、本会報へ寄稿させて頂くことになりました。皆さんは作家の池井戸潤氏をご存知でしょうか？「半沢直樹」シリーズや「下町ロケット」等で話題の人気作家です。私は三菱銀行（現三菱UFJ銀行）に勤務したのですが、池井戸氏も三菱銀行で社宅が同じだったのです。私には個人的な付き合いはありませんでしたが、妻や子供達はご家族との社宅付き合いがあったようです。同じ銀行出身ということで、「半沢直樹に出てくる話は実話なのか？」との質問を受けることがあります。銀行頭取もお客さまからそのような質問を受けるそうですが、「ほとんど実話です」と回答されているとか（笑）。さすがに内部抗争や権力闘争のようなドロドロした部分はフィクション（作り話）と思いますが、使われている実務用語とか事件・トラブル、金融庁検査の場面等はあまりにもリアル過ぎて、ほぼ実話といってもいいくらいです。「半沢直樹」にはモデルが実在すると言われています。半沢〇〇さんと〇〇直樹さんという方がいて、このお二人が合わさって「半沢直樹」が出来上がったと、まことしやかに語られています。私はお二人と仕事をしたことがあり、良く存じているのですが、小説と同じなのは名前だけです（笑）。

さて、私がこれからお話しする内容は、とても小説のようなエンターテインメント仕立てとはなっていませんが、それでも一介の銀行員としてはかなり稀有な経験だったのではないかなと思っています。それでは私の銀行員としての奮戦記に最後までお付き合いください。

2. 小樽湾～海の向こうへ/海外への憧れと好奇心

小樽に生まれた私たちは小樽湾をみて育ちます。小樽湾の遠く西側にはロシアや旧満州の広大な大陸が広がっています。親戚付き合いをしていた方が海外航路の船員として世界中を航海していました。潮陵高校からの帰り道、南樽駅方面から眼下を見渡すと小樽湾が目の前に迫ってきます。いつしか私も将来は海外でチャレンジしてみたいと、漠然とですが意識するようになっていました。

潮陵高校では軟式野球部に所属して遊んでばかり。受験勉強は高3からで良いと勝手に思い込み、高1と高2は好きだった英語と数学だけやっていました。高校生活は充実していましたが、かなりヤンチャな事も

やりました。詳細を書く関係者にご迷惑が及びますので割愛させていただきます。いよいよ高3になった時、学級担任は数学の五十嵐先生（故人）でした。やはり詳細は書けませんが、私が今あるのは五十嵐先生のお陰だと思っています。友人にも恵まれました。今でもLINEやFacebookで繋がっています。

大学受験は失敗しました。所詮、田舎高校生が1年間だけの努力で難関大学に合格するのは無謀だったのです。今の時代と違って受験情報は不足していますし、全国の有名高校では受験生がどのような参考書を使っているのか知ろうはずありません。このことを痛感して、東京で浪人することにしました。父親に両手をついて頭を下げて許して貰いました。これ実話です。

3. 大学生生活～銀行へ就職/人生の岐路：米国ウォール街を闊歩したい！

東京では予備校の学生寮で死に物狂いになって勉強しました。寮長からはスパルタ式に精神面を鍛えられ、奥様からは東京の母親のように支えて頂きました。1980年、努力と寮長夫妻や卒業した先輩方のご支援のお陰で、一橋大学経済学部は無事合格。潮陵高校へ合格の報告に行った時、職員室の先生方が「えっ、お前が...!？」と絶句するのをみて何とも言えない達成感に浸ったものです。

数学が好きでしたので潮陵では理系クラスに入ったのですが、数学では海外で飯を食べないと考え直し、色々調べて経済学部を志願しました。経済学の教科書が数式でびっしり埋まっていたからです。マクロ経済学やミクロ経済学といった理論経済学が、数学を駆使して経済活動を分析して将来を予想する学問であることに強い興味を持ちました。

大学では体育会の準硬式野球部に所属する傍ら、学生寮への恩返しで浪人生に受験数学を教えて生活費を稼ぎました。経済学部では武隈愼一教授ゼミに入りました。武隈教授も潮陵OBです。就職活動では海外への憧れから商社を志望し、内定も貰いました。しかし、良く考えてみると自分は先進国、それも世界の金融の中心地である米国NYのWall Streetを闊歩したいのではないかと気が付き、ご縁があつて三菱銀行（現三菱UFJ銀行）のお世話になることにしました。周囲からも「お前の性格は根が真面目なので商社よりも銀行向きだ」と散々言われて内定式

の前日まで悩み抜きました。銀行からも「みんな国内志望ばかりなので、海外を希望すれば100%行かせてやる」と言われたことも決め手になりました。海外でチャレンジするために小樽を離れて東京まで出てきたのですから「100%海外」の誘惑に勝てませんでした。

4. 外為ディーリング/「湾岸戦争」とアジアへの思い（シカゴ・NY駐在：30歳）

1984年、銀行に入行すると、最初に配属された国内支店で預金・貸付・送金・貿易取引・外国為替といった銀行業務の基礎と社会人としての一般常識を叩き込まれました。また当時は珍しかった海外志望でしたので、国内の英語学校へ3ヵ月間派遣してもらいました。

次に配属されたのが資金為替部。外為ディーラーとして毎日の米ドル資金繰りと金利ディーリングを担当しました。通常、期間の短い金利の方が期間の長い金利よりも低いので（順イールド）、米ドルを短期金利で調達して長期金利で運用すれば儲かります。しかし、景気が悪くなるとこの長短関係が逆転して（逆イールド）、大きな損失を出してしまいます。ということは、経済動向を正確に予測できれば大きな収益を稼げるということです。ここで、大学で勉強した理論経済学が大いに役立ちました。米国の経済指標を分析したり、経済ニュースを読んだり、専門書を読み漁ったり。金融先物やオプション等の金融工学（主に数学や統計学）も何とか使いこなせるようになりました。

配属された直後の1987年10月、米国では株価が大暴落して金利も急落、景気は悪化しました。後に「ブラック・マンデー」として記憶されることになります。一方、日本ではバブル景気真っ盛り。ジャパン・マナーが世界を席巻していました。大手不動産会社がNY五番街のロックフェラー・センターを買収すると「ジャパン・マナーが米国の魂を買った」と言われ、「ジャパン・アズ・ナンバーワン」という世界ベストセラー本のタイトルが流行しました。

体力的には厳しい毎日でした。扱っているのが米ドル金利ですから、主戦場は米国、相場は日本が寝ている深夜に米国で動きます。深夜残業は当たり前、「寝たら負けだ」を合言葉に頑張りましたが遂に限界を感じていた頃、米国シカゴ支店内に本部駐在デスクを設置して日米24時間ディーリング体制を構築する企画案が承認されました。私は「助かった！」とすぐさま手を挙げ、晴れてシカゴ赴任、海外勤務が実現しました。入行時の約束が果たされた瞬間でした。

シカゴへ赴任したのは30歳直前の1989年11月、ちょうどベルリンの壁が崩壊した時です。同年6月には中国で天安門事件が発生していて、世の中が騒然とするなかでの赴任でした。シカゴに家族（妻と長男）も到着、翌年7月には次男も生まれました。海外で子育てしたいと考え、妻も同意してくれました。さあこれからと思った矢先の8月、今度は中東で湾岸戦争が勃発しました。イラクが隣国クウェートに武力侵攻したのです。突如、相場画面の先物価格が大暴落（金利は急騰）、ディーリング・ルームが一瞬にしてパニックになりました。当時「世界の警察」を標榜していた米国が武力介入を決断、国連決議による多国籍軍を派遣してイラク空爆が行われました。「湾岸戦争（Gulf War）」です。我が日本は憲法の制約から軍隊を派遣できません。大荒れに荒れた国会審議を経て最終的に130億ドル（約1兆3千億円）という最大級の資金援助を決めました。

私にとっての人生の転機はここからです。シカゴの街中がリボンで黄色一色に染まりました。戦地へ派遣された夫や妻、子供達の無事生還を祈って、残された家族が電柱や樹木に黄色いリボンを結び付けたのです。米国人の知人からは「日本人は金を出す血は流さない」と非難され悲しくなりました。日本国憲法は米国人が作ったのだと釈明すると驚かれました。暫くして米国のマスコミが、なぜ日本は軍隊を派遣しないのかを太平洋戦争を振り返ってTVや新聞、雑誌等で冷静に報道していたことが印象的でした。

遂にイラクが降伏してクウェートが解放されると、クウェートが米国新聞の両面見開きページに大々的に感謝広告を出しました。米国ありがとう、英国ありがとう、ドイツありがとう、韓国ありがとう等々。しかし、何度読み返しても日本の名前がありません。日本は軍隊を派遣せず資金援助だけでしたが、金額では最大規模の貢献でした。何ということでしょうか。悔しかったですね。あとでお聞きすると、当時この新聞広告をみた日本人駐在員の多くの方々も悔しい思いをされたそうです。

この新聞広告をみて、私は「日本って何だ？」「日本は世界とどうやって付き合うべきか？」を強く意識しました。そして気付きました。アジアです。これまでは欧米に憧れてきたが、日本人である自分は同じアジア人としてアジアをどれだけ知っているのか？何も知らない。そうであれば欧米よりも先にアジアを知るべきではないか、アジアに行きたい！ーそれ以降、会社役員にアジア赴任を直訴するようになりました。今でこそアジアは重要なマーケットですが、当時は随分

と珍しがられたものです。せっかく米国にいるのに、なぜアジアなのかと。

ところで、多国籍軍がイラク空爆を開始した1991年1月17日、私はNYへ出張中でしたが、空爆と聞いて急遽シカゴへ引き返すことになりました。イラクによる米国内でのテロ活動が懸念されたからです。シカゴには生まれたばかりの次男もいます。妻や子供たちの顔が目に見え、さて、大混乱のケネディ空港で飛行機に搭乗すると、機内アナウンスがあつて乗客全員が機内から降ろされました。荷物がひとつ金属探知機をすり抜けたので全員の荷物を再検査するというのです。やれやれと思っていると、数人の係員が私めがけて突進してくるではありませんか。そして「これだ！」と叫んで私に荷物を開けろと詰め寄ります。何が何だか分からずに荷物を開けると、慌ただしく中身を検査して「OK」と。お前の荷物が探知機をすり抜けたのだとの説明に、集まった他の乗客達から殺気立った視線を一斉に浴びました。今思い返しても恥ずかしさで冷汗がでます。それにしても、なぜ私だと分かったのでしょうか。未だに謎です。やっとのことでシカゴ・オヘア空港に到着してタクシーに乗り込むと、運転手がどうみても中東系の中年男性。勇気を出して聞くと「俺はイラク人だが安心しろ、サダム・フセイン(当時イラク大統領)は大嫌いなのだ」と。帰宅までの車中では「命」を身近に感じながら一刻も早く家族の元へ帰りたいと念じました。

翌年、銀行の組織変更があつてNYへ異動となり、世の中が少し落ち着きを取り戻すなかで念願が叶つてWall Streetを闊歩することができました。程なくして1992年秋に帰国、日本国債のチーフ・ディーラーとなりました。その後、銀行は1996年に東京銀行と経営統合します。

(ご参考)クウェートは、その後、東日本大震災の復興支援として、原油500万バレル(約450億円相当/当時)等、湾岸戦争への感謝として多くの支援をしてくれたことを記しておきます。

5. 大企業取引とバブル崩壊/アジア通貨危機と銀行・証券会社の経営破綻

1997年に営業本部へ異動となり大企業の担当になりました。ディーリングでは兆円単位の資産を扱っていましたが、それよりも実体経済に触れてみたくなったのです。ところが、再び大変な事態が起きました。アジア通貨危機です。湾岸戦争の傷が癒えた米国経済は順調に回復し米ドルが強くなっていました。当時、アジア各国では自国通貨を米ドルにリンクしてい

ましたので(ペッグ制度)、アジアでは自国経済の実態から乖離して通貨だけが強くなっていました。そこへ目を付けたヘッジファンドがアジア通貨に猛烈な売りを浴びせたのです。発端は同年7月のタイ・バーツ暴落でした。ちょうど香港が中国に返還されたタイミングが狙われたとされています。この暴落がインドネシア、マレーシア、韓国などに飛び火して世界中がパニックになりました。日本も大きな衝撃を受けました。私が担当した大企業もアジア中心にグローバル展開していましたので、通貨暴落により財務内容が大幅に悪化しました。とはいえ、基本的に米ドルでのビジネスでしたから、悪化したのは自国通貨建てで換算表示する表面上の決算書だけで、実態的な影響は軽微でしたが。

影響をまともに受けたのはバブル崩壊で経営が苦しかった日本の銀行や証券会社でした。金融市場が一気に収縮したことで資金調達が困難になり、北海道拓殖銀行や山一証券など銀行・証券の経営破綻や統廃合が続きました。銀行からの融資継続を断られた中小企業の倒産も相次ぎ、もはや金融恐慌ともいえる惨状です。財務内容に余裕のなかった銀行は米ドル資金の調達にも苦労したようです。当時は「ジャパン・プレミアム」といって、日本の銀行が市場から米ドル資金を調達する際には資金出し手の欧米銀行から一定の上乗せ金利(プレミアム)を求められました。「ジャパン・アズ・ナンバーワン」とは真逆の屈辱的な状況です。私も営業本部の担当者として、日本を襲ったこの大激震の真只中にいました。でも、バブル崩壊の後遺症はこれで終わりではなかったのです。

6. シンガポール金融当局との攻防(シンガポール駐在: 40歳)

2000年、40歳でシンガポールへ赴任しました。シカゴでアジアに目覚めてから既に8年以上が経過。企画課長として事業計画、業績・経費管理などに加えて、シンガポール金融当局(MAS)の担当になりました。シンガポール訛りの独特な英語に悪戦苦闘していた2001年、日本で株価が急落して大手企業が倒産するとの噂が飛び交い、マスコミでも元日銀マンが作成したというレポート(倒産する可能性の高い企業一覧表)なるものが大々的に報道されるようになりました。

ある日、MASから電話が掛ってきました。「日本のマスコミが報道しているレポートに記載されている企業への融資状況を至急報告せよ」というのです。直後に

また電話が掛ってきて「全ての企業への融資資料をコピーして、明朝一番で提出せよ」と指示してきました。それは無理だと押し返すと、今度は「貴行が破綻した場合を想定して、シンガポール通貨の預金全額と同額のシンガポール国債を購入しろ」と要求がエスカレートします。銀行が破綻しても、シンガポール国債を市場で売却して換金すれば、シンガポール通貨の預金払い戻しに充当できる、つまりシンガポール預金を保護できる、というわけです。そんな大規模な国債購入など常軌を逸しています。驚いて他行へも確認すると、やはりMASから同じ指示を受けているとのこと。これは大変なことになったと直感して、他行に声を掛けて相談しました。そして、各行とタッグを組んでオール・ジャパンを結成、各々本部へ協力要請して日本の金融庁から直接MASへ掛け合って貰うことにしました。眠れない夜が続きました。私はシンガポール支店の銀行清算バランズ・シート(経営破綻を想定した場合の資産・負債関係資料)を作成してMASに出向き、当行はシンガポール国債を購入せずとも預金は十分に保護できると説明してゼロ回答しました。更に畳みかけて、「このままでは日本の銀行全体に対する経営不安の噂が広まり、シンガポール発の世界恐慌になりかねない」「MASは本気で引き金(トリガー)を引くのか?」と必死に迫りました。もうどうにでもなれとの気持ちでした。

結局、MAS担当官が交代して何事もなく収束しました。あとで分かったことは、MASのような反応を示したのはシンガポールだけではなかったということです。当時、世界は日本の銀行の不良債権の状況を危惧していたのです。一段落した頃、MASの別チームが私に面会を求めてきました。「MASは日本の銀行とは良好な関係を構築したいので協力して欲しい」というのです。MASのあまりの豹変ぶりに拍子抜けしてしまいました。銀行は2006年にUFJ銀行(三和銀行+東海銀行)と経営統合、私はシンガポールでの統合作業の責任者として実務を取り仕切り、同年6月に帰国しました。

ところで、MASとの攻防の余韻が冷めやらぬ2001年9月11日、米国NYではWorld Trade Centerがテロ攻撃を受けて崩落、多数の犠牲者が出るという信じられない大事件が起きました。そして、この9.11テロ事件が、その後の私の運命に大きく関わってくるのです。

7. 日米金融当局から業務改善命令/海外コンプライアンス管理を再構築

2006年6月、UFJ銀行との統合を済ませて帰国したのも束の間、シンガポールでお世話になり先に帰国していた先輩に頼まれて海外コンプライアンス再構築のプロジェクト・チームに組み込まれました。といってもメンバーは私ひとり。驚くことに米国金融当局(FRB)から業務改善命令が出るというのです。マネー・ロンダリング(資金洗浄)の管理体制が不十分であり、このことが米国の法律に違反するのだと。具体的な違法行為は何もしていないのに、管理体制が不十分というだけで法令違反に問われるという事態に、銀行内は大騒ぎになっていました。更に、日本の金融庁も母国当局として看過できないので同じく業務改善命令を出すと言ってきました。これまでの経験から何が起きても動じない性格へと鍛えられていた私も、これにはさすがに驚きました。

調べてみると、欧米の大手銀行は既に2年ほど前から同様の理由でFRBから軒並み業務改善命令を受け、既に再発防止策を導入済みであることが分かりました。欧米銀行が一巡したことでFRBは日本の銀行にも照準を合わせてきたのです。更に調べてみると、米国にとってマネー・ロンダリング防止はテロ活動資金を止めるための最も有効な手段でした。2001年の9.11テロ事件を契機にして「テロとの戦い」に踏み切った米国は、世界中の銀行取引を監視することでテロ活動資金の動きを封じ込めることが出来ると気が付いたのです。通常マネー・ロンダリングは脱税行為に利用されますが、テロリストも利用していました。そこで、FRBはテロ活動資金を止めるための極めて高度な管理体制を銀行に求めることにしました。単に求めるだけではなく業務改善命令という行政処分を課す厳しい方法で。米国にとってこれは「戦争」でしたから容赦ありません。巨額な罰金も課されました。とはいえ、米国が主権として手出しできるのは米ドルだけです。ですが、世界中の資金取引の多くは基軸通貨である米ドル建が主流でしたから、米ドルに規制を課すだけで極めて大きな効果がありました。行政処分が不服なら米国市場から撤退して米ドル取引を諦めるしかありませんが、それでは銀行経営が成り立ちません。世界中の銀行にとってFRBの業務改善命令に従う以外に選択肢はありませんでした。そして、欧州EUも日本も米国に追随して、各々自国通貨に米ドルと同じような管理体制を構築して、各国が連携してテロリストを資金面から締め付ける体制を構築することになりました。

さて、プロジェクト・チームにひとり放り込まれた私は、経営トップから「海外コンプライアンス体制をぶっ壊してゼロから作り直すように」と指示を受け、必死の思

いで勉強して企画しました。2006年12月、遂に米国で業務改善命令が出て、2007年6月に金融庁からも業務改善命令が出る頃には、私が企画した再発防止策が経営会議で了承され、メンバーが増員されました(最終的に約40名)。世界中に専門部署も設置して、マネー・ロンダリング防止だけにとどまらない、行員不正への未然防止も含めた包括的な海外コンプライアンス体制がスタートしました。私は新設した国際コンプライアンス部の初代の企画次長を拝命。それからの約2年間、寝る間も惜しんで悪戦苦闘した結果、2008年10月に米国の業務改善命令が解除され、間もなく金融庁からも解除されました。金融庁から解除通知を受け取り、銀行へ持ち帰った時は部員みなでお互いの健闘を讃え合いました。

米国FRBや金融庁から業務改善命令が出た時は新聞一面やテレビ等で大々的に報道されました。金融庁担当官から「日本で最大の銀行ということは、世間からのご批判も最も厳しいのだということをしっかり認識して頑張ってください」と励まされました。この時の金融庁担当官は小樽商大のOBです。小樽の持つ不思議なご縁を感じました。

この担当官には大変お世話になりました。金融商品取引に関する法律が全面改訂され、「金融商品取引法」として2007年9月30日付で施行されることが決まっていました。私はこの法律が施行されると、銀行が日系企業の海外進出をお手伝いする業務に重大な支障が出るといち早く気付きましたが、気付いたのが業務改善命令の出る直前だったこともあり対応に苦慮していました。ちょうどそんな時、この担当官から貴重なアドバイスを頂いて、他行へも声を掛けてメガ・バンク3行でオール・ジャパンを組み、銀行界の統一希望という形で金融庁に銀行法の改正を要請しました。銀行法を改正することで金融商品取引法を遵守できるようにしようということです。他行でも同じタイミングで気付いていて、個別に金融庁に相談していたのでした。5月のGW連休を全て休日出勤して銀行内の関連部門とも協議を続けました。金融庁もこのままでは日本の国益を損なうことになりかねないのご判断され、何とか改正銀行法が国会を通過しました。シンガポール以来のオール・ジャパン対応でした。

8. リーマン・ショックとモルガン・スタンレー証券との資本提携

2008年、日米の業務改善命令の解除が見えてきた頃、米国でリーマン・ショックが起きました。住宅ローン・バブルが崩壊して米国の超一流証券会社が軒並

み経営難に陥り、遂にリーマン・ブラザーズ証券が倒産したのです。米国では銀行の住宅ローン債権を証券会社が証券化して販売していましたので、銀行よりも証券会社の方が大きな打撃を受けました。後に「リーマン・ショック」と呼ばれるこの事件は、日本のバブル崩壊やアジア通貨危機よりも甚大な激震を世界中に及ぼし、世界中が不景気になりました。米国の大手証券会社が全滅すれば、その余波は銀行や保険会社をも巻き込み、想像しただけでも恐ろしい事態となります。

リーマン・ブラザーズ証券の次に倒産するのはどこかと噂が駆け巡っていた同年9月、モルガン・スタンレー証券に三菱UFJが出資するとのニュースが世界中を駆け巡りました。金額にして90億ドル(約9,000億円)、出資比率20%という思い切った内容でしたが、この報道がきっかけとなり金融市場の動揺も収まりました。実は、日本の金融機関はバブル崩壊やアジア通貨危機を乗り越え、財務内容もV字回復していましたのでリーマン・ショックの影響もそれほどなく元気でした。一方、欧米の金融機関は体力を大きく消耗してしまっており、余力が無かったようです。報道ではまるで当行が救世主のように扱われました。

さて、モルガン・スタンレー証券への出資は米国FRBも前向きに評価してくれましたが、業務改善命令が解除されないままでは出資認可を受けることができません。日本の金融庁からも同様に認可を受ける必要がありましたが、やはり業務改善命令の解除が条件です。これはエライことになったと思いました。一刻も早く業務改善命令が解除されなければ、モルガン・スタンレー証券への出資ができず、ひいてはリーマン・ショックも収まりません。銀行内の各所から早くしろと迫られ、否応なしにプレッシャーが高まります。でも、内心ではある確信がありました。私は出資払い込みまでには前倒しで解除されるだろうと楽観していたのです。というのも、すでに業務改善命令への対応はほぼ完了しており、解除までタイミング待ちの状態だったからです。過去の欧米銀行の前例では解除までに最短でも2年以上を要していましたが、皆で最短記録を更新しようと頑張っていました。しかも今回はリーマン・ショックという超ド級の大事件が起きているわけですから、米国FRBもできれば早期に処分解除したいと考えるはずです。思惑通り、最短の2年までまだ2〜3ヵ月残していましたが、米国FRBから処分解除となり、直後に金融庁からも解除されました。記録更新が達成されたのです。前出の金融庁担当官(小樽商大OB)から「お疲れさまでした」とお言葉を掛けて頂いた時は感無量でした。

モルガン・スタンレー証券への出資は同年10月13日に完了しましたが、スムーズにはいきませんでした。当日は米国では銀行休業日でしたので口座への振込ができません。一方、金融市場では日本の銀行が本当に出資するのか疑心暗鬼になっていましたので翌日まで延期するわけにもいきません。払い込みを完了させてマスコミ発表し、翌日の市場が開く前に疑念を払拭させておく必要がありました。そこで、米州企画部長が90億ドルの小切手を作成して持参しました。おそらく当時の人類が手にした史上最高額のの小切手です。この辺りのドタバタ劇は“Too Big To Fail” (邦題:リーマンショック・コンフィデンシャル／出版社 早川書房)という本の中で再現されていますので、ご興味のある方は是非読んでみてください。この出版情報をいち早く知った私がNYの米州企画部長にお伝えすると「さっそく購入して家宝にする」と喜んでいました。

9. PDCAへの覚醒

業務改善命令への対応のなかで最も勉強になったのは「PDCA」でした。特に欧米が起源というわけではないと思うのですが、欧米で発達したとされる改善サイクルです。計画(P:Plan)を立案して、その計画を実行する(D:Do)。計画を実行するなかで不具合が見つければ、その計画を検証して修正する(C:Check)、そして修正した計画を推進する(A:Action)。これを改善できるまで何回も繰り返すので、PDCAサイクルといわれています。最も重要なポイントは、課題を正確に認識できるかどうかです。課題認識を間違えれば、対策も間違えることになりますので改善できません。課題を正確に認識できれば、有効な対策は必ず存在しますので、あとはその対策を実行する勇気と覚悟があるかということになります。もちろん、実現不可能な対策もあり得るので、経験と勘で、現実的で、かつ、実効性の高い対策を選択できなければなりません。人間というのは弱い生き物ですから、どうしても目の前の現実から逃避したくなります。しかし、確実に改善するためには勇気を持って厳しい現実に向き合わなければなりません。勇気と覚悟さえ持てれば、あとはPDCAに沿って最後までやり抜くのみです。業務改善命令を短期間で解除して頂けたのは、このPDCAサイクルのお陰だと思っています。

こうして考えると、PDCAサイクルというのはリスク管理のみならず、あらゆる分野で機能するように思えます。仕事に限らず、人間の性格まで改善できるのではないのでしょうか。私の潮陵時代の友人は、PDCAを

やり抜いてダイエットに成功しました。すごい友人です。私はというと自身のこととなると覚悟が不十分のため上手くいきません。課題認識からしっかりやり直さなければならないと反省しています。

10. ベトナム赴任とアジア「民間外交」への目覚め (ホーチミン駐在：50歳)

2010年、50歳でホーチミン支店長を拝命し、ベトナムへ赴任しました。銀行員は通常50歳台の前半で関連会社か一般事業会社へ転籍しますので、銀行員としては最後のご奉公ということです。当時、海外拠点長は旧東京銀行の牙城でしたので、旧三菱銀行出身の私に対してはおそらくご褒美だったのではないかとと思っています。旧東京銀行は日本唯一の外為専門銀行として、戦前から世界中に進出していた日本を代表する名門銀行です。ですから、旧東京銀行と経営統合した時は、海外志向を貫くべきか、国内へ転換すべきか大いに悩みましたが、晴れてホーチミン支店長を拝命した時は初志貫徹して良かったと思いました。

ホーチミンは1975年ベトナム戦争終結前まではサイゴンと呼ばれた歴史ある都市です。歴代支店長の記録によれば、太平洋戦争以前の東南アジアでは、旧ビルマのラングーン(現ミャンマーのヤンゴン)、マニラ(フィリピン)、そして旧サイゴン(ベトナムの現ホーチミン)が3大都市として繁栄していたそうで、タイのバンコックは辺鄙な田舎町なので行きたくない、と記載してあります。今ではバンコックが最も発展していますので、信じられないような変貌振りで。

経営トップからは「温暖なベトナムで羽を伸ばして来い」と送り出されたのですが、いざ赴任してみると、そうも言っていられない大変な状況でした。経済が急成長していた陰で、国際収支が悪化して自国通貨が下げ止まらず、多くのお客さまが輸入決済用の米ドルを手当てできずに困っていました。更に、中国では反日デモが激化して、中国からベトナムへ生産拠点をシフトする日系企業が急増しました。中国リスクが現実のものとなり、こうした動きは「チャイナ・プラス・ワン」と呼ばれています。着任早々、連日のように新規進出のお客さまにベトナムのマクロ経済や投資環境を説明させて頂く日々が始まりました。私は正直に、ベトナムにはこんなリスクがありますよ、それでも構わないのであれば来てください。来ていただければ当行が全力でお手伝いしますとお話させて頂きました。リスクをあまりにも馬鹿正直に解説するものですから、銀行本部からは「自分が赴任している国の悪口を言

うなんて何という支店長か！」と叱られました。ハノイ（ベトナムの首都）からも日本政府機関の方がわざわざ面会に来て「銀行支店長の発言は影響力があるのだから自重して欲しい」とお小言を言われる始末。

でも私は自分のスタイルをブレずに貫きました。ベトナムは日本にとって奈良時代から続く歴史的な友好国です。当時、ベトナムに行きさえすれば何とかなると軽い考えで進出し、失敗して撤退する企業が少なからずあり残念に思っていました。私は、ベトナムへ来たからには成功して欲しかったのです。逃げずに勇気と覚悟をもって厳しい現実に向き合えば、必ず道は開ける。そうです、PDCAの精神です。やがて私のこうした考え方は理解され、各所で講演の講師を要請されるようになりました。お話だけでは不十分と考え、講演内容をレポートに纏めて銀行関係のコンサルタント会社から月報として銀行のお客様に広く配布させても頂きました。現地の日本商工会からは副会長を拝命しましたので、この副会長という立場を最大限に有効活用して、ベトナムや欧米アジアの各国商工会とも関係を構築しました。現地新聞にもインタビュー記事が掲載されました。お小言を言われた日本政府機関の方も「ベトナムに進出したいなら山下支店長の話を聞け」と周囲にアドバイスしていたとお聞きした時は嬉しかったですね。

こうしたなか、2012年12月、ベトナムの大手銀行Vietinbankに約630億円を出資して株式の20%を取得しました。ベトナムのマクロ経済環境は厳しかったですが、それよりも将来の成長に期待しての本部決断でした。私も支店長として意見書を提出していました。お陰様で、日系企業はもとより、韓国、台湾、タイ、欧米各国のお客さまとお取引させて頂くことができましたし、ベトナムの電力発電、製鉄所、住宅都市開発などインフラ整備のための各種ファイナンスでもお手伝いさせて頂きました。とても有難いことだと思っています。他にも、現地大学へ奨学金を寄付して学生たちと討論会をやったり、日越商工会のイベントでモデレーターをやらせて頂いたり、現地政府関係者の前でスピーチしたりと、充実した日々を送らせて頂きました。

こうした活動のなかで強く感じたのは、ベトナムの日本に対する信頼感や期待感が如何に強いのか、ということです。残念ながら日本は隣国との関係があまり良くありませんが、東南アジアではベトナムに限らずどの国とも日本との関係は良好です。世界地図を眺めると、実は隣国同士で仲良くやっている地域が少ないことに気が付きます。世界規模でみると、日本と隣国の関係だけが悪いわけではないのです。また、日

本と隣国についていうと、関係が良くないのは主に政府間同士であって、国民同士の関係はそれほど悪くないというのが私の実感です。そこで、シカゴでアジア志向となった自分は、この分野で何かできるのではないかと思い、政府の外交ではなく、我々の誰もが民間レベルでできる「民間外交」に目覚めたのです。生意気に聞こえるかもしれませんが、そうだ、日本とアジアの架け橋になりたい、と。

2013年、現地の日本商工会からは次期会長を打診されましたが、支店長としての任期が迫っていたので丁重に固辞させて頂き、同年12月に帰国しました。北海道庁からは親善大使のようなポストも拝命していましたが、こちらは現地生産で成功していたサッポロビールの現法社長（札幌出身）に引継がせて頂きました。

11. エピローグ

帰国直後に、金融庁からご指名を受けて勉強会の講師を務めました。ホーチミンで私の講演を聞いて下さった金融庁関係者からのご要請で講師を引き受けたのですが、当日、講演会場へ行くと小樽商大OBのあの担当官が手配して下さっていました。嬉しかったですね。帰国報告を兼ねて、あらためて業務改善命令当時のお礼を申し上げました。

金融庁からお誘い頂いたり、他にも色々な可能性がありましたが、ご縁があって、現在は建設エンジニアリングの会社のお世話になっています。工場やビルの空調設備、自動車や航空機の塗装設備を納入する会社で、世界中の約20ヵ国に出先があるため、海外出張に飛び回る日々を送っています。日本国内にも北海道から沖縄まであります。この会社を選んだ最大の理由は、アジアと「民間外交」ができることでした。幸いなことに、この会社は自動車や航空機メーカーもお客さまですので、欧米にも出先があり、欧米人とも民間外交ができます。今の担当業務はコンプライアンスですので、各地で研修講師をしたり、拠点のリスク管理体制を構築するアドバイスをしたりして、現地社員との交流を楽しんでいます。業務はコンプライアンスですが、銀行出身なので、金融経済や為替動向はじめ、経営相談を求められたりもします。今後は別の業務を担当するかもしれません。

さて、私の銀行員としての奮戦記はこれで終わります。作家の池井戸潤氏の小説と比較させて頂くなどというのは、甚だ僭越なではありますが、銀行員としては得難い経験をさせていただいたのではないかなと思います。偶然ですが、30歳でシカゴ、40歳でシ

ンガポール、50歳でホーチミンと人生の節目で海外赴任となりました。海外へ出たことで日本の色々な面が見えるようになった気がします。日本と世界の間を考えると歴史にも興味をもちました。日本は単独では存続できないわけですから、世界と協力しなければなりません。その国の方々と関係を構築しようとする際、その国の歴史を知っているのと知らないのとでは信頼関係の構築に差が出るように思えます。また、こちらも日本人として日本の歴史を知らないよりは知っている方が、相手からの信頼度が違ってくると実感しています。

最後に、この寄稿を読んでくださっている現役生の皆さんに、上から目線となり恐縮ですが、先輩としては是非お伝えしておきたいことがあります。逃げずに現実に向き合えば必ず道は開けるという「PDCA」の考え方を偉そうに申し上げましたが、そのためにはもっと大切なことがあります。それは「謙虚たれ」ということです。思い通りにならないことに直面すると、どうしても責任転嫁して自己を正当化したい気持ちになりますが、それでは進歩がありません。素直になれないばかりに他人の意見が耳に入ってこないからです。

でも、謙虚であれば他人の意見を受け入れて、自分の考え方を見直すことができます。私は銀行に入っただばかりの新人の頃に、当時の上司から言われたことが今でも忘れられません。「3人の方から同じ指摘を受けたら、その指摘が正しいのであってお前が間違っていると思え」と。自分の間違いに気が付けば、そこからPDCAサイクルを回して改善することが可能になります。

皆さんのこれからの人生に幸多からんことを祈念して、この寄稿文を終わらせて頂きます。最後までお付き合い頂きありがとうございました。

以上

【ご参考】

ベトナム事情については、「潮陵」に3回シリーズで連載して頂きましたので、ご興味のある方はこちらもご参照ください。

No.74(2011.12)、No.75(2012.3)、No.76(2012.12)



メキシコシティの旧市街です。アステカ帝国の宮殿があった場所ですが、今ではスペインの教会が歴史を物語っています。



インドネシア。民族音楽を奏でる演奏家と。



タイのアユタヤ遺跡です。



ホーチミン市税務局セミナーにて



ベトナムの Vietinbank へ出資
日本経済新聞主催の講演会でスピーチ



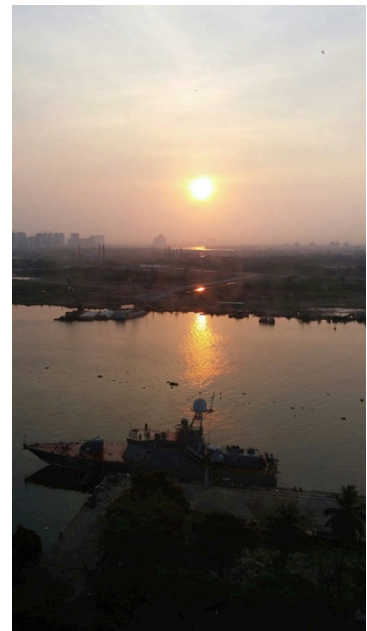
三菱 UFJ 銀行ホーチミン支店



ホーチミンの地下鉄工事。日本が全面的に支援。



ホーチミン市内



サイゴン川の日の出
左側のカンボジアのプノンベンから右側の南シナ海を繋いでおり、主要な物流港がいくつも稼働している。

第 62 回定時総会及び新会員歓迎会報告

第 62 回定時総会及び新会員歓迎会は、新緑も眩しい平成 30 年 6 月 2 日(土)に、青山のアイビーホールで開催されました。46 期から 108 期までの同窓生 48 名が参集しました。また、刑事弁護人として活躍され、新聞、テレビにもしばしば登場される亀石倫子さん(87 期)に、講演を行って頂きました。

第 1 部の定時総会は、14 時より南澤孝夫事務局長(65 期)の司会で開始され、冒頭、昨年の同釜会(おなかまかい)以降にご逝去の連絡を頂いた 11 名の同窓生のご冥福をお祈りし、黙祷が行われました。佐々島宏会長(65 期)からの開会の挨拶に続いて、総会議長に今日出夫副会長(67 期)を選出し、第 61 回事業年度事業報告と決算報告、会計監査報告、第 62 回事業年度計画案と予算案の審議が行われ、満場一致で承認されました。

昨年度は当会の創立 60 周年にあたることから、記念事業として、「OB・OG の経験を在校生に伝え、楽しい人生と職業を目指してもらおう」をテーマに、「OB・OG アンケートの実施と記念会報の発行」及び「OB 出前セミナー」を実施しました。OB・OG の熱い想いが、在校生の胸に響き、何かを感じ取ってくれたらと願っています。

昨年度の収入は 1,412,924 円となり、予算や一昨年の実績を大幅に過達しました。年会費、寄付金が大

幅に増え、60 周年事業の効果と考えています。広告代も寄与しました。一方、支出は 1,521,618 円でした。昨年は、60 周年事業に大きな支出を見込んだため、予算では 54 万円の赤字見込みでしたが、会報等の経費を切り詰め、実績では 10 万円の赤字に抑えることができました。したがって、次期繰越金として、762,047 円を確保することができました。

続いて、亀石倫子さんによる「刑事弁護人となった私」と題した講演が行われました。潮陵、小樽の自由な雰囲気の中で感性を育み、刑事弁護士として、これはおかしいと思った権力の行使には声を上げ、次の世代の為に、損得抜きで戦っている姿に、大変感銘を受けました。

第 2 部の新会員歓迎会は、館山恵子さん(66 期)の司会でスタートしました。来賓の小樽潮陵高等学校長 片岡晃様、東京小樽事務所 新保光弘様、潮陵倶楽部会長 西條文雪さん(65 期)のご挨拶に続き、東京小樽会会長 清水川洽二さん(52 期)の乾杯のご発声を受けて、同期を中心に集まったテーブルごとに歓談しました。途中からは、座席をシャッフルし、様々な年代で談笑しました。亀石倫子さんを囲んで写真を撮る姿が、あちこちで見られました。

合間には、今回参加最年少の大学生・大学院生 高橋伶生さん、中村朋暉さん、渡邊健吾さん(いずれ

も 108 期)、初参加の清水俊之さん(73 期)、高橋亜希子さん(86 期)、はるばる大津市から参加の田村類さん(65 期)、熊本市から参加の岩間世界さん(95 期)の自己紹介、近況報告が行われました。また、中村裕之衆議院議員(73 期)の祝辞が披露されました。

楽しい時間もあっという間に過ぎて終了時刻の 17 時が近づき、最後に、福井早枝子さん(65 期)の音頭で、全員で校歌を斉唱したのち、恒例により、出席者最年長の 46 期 工藤孝友さん、島 雄一さん、布施市蔵さん、本間 佳さんの音頭による一本締めと、出席者全員による記念撮影で閉会となりました。お土産には、甘納豆とおたるワイン小瓶を頂きました。

今回は、亀石倫子さんのおかげで、とても華やかで有意義な会となりました。会場は、いつもより手狭でしたが、その分、お互いの距離が近く、シャッフル後も話が弾みました。来年の総会では、佐々島さんから今さんに、会長が引き継がれます。例年よりも規模の大きな会を計画していますので、皆さん、是非ご参加ください。

なお、中ノ目製菓の中ノ目孝道さん(65 期)、北海道ワインの畠村公宏さん(74 期)には、おみやげの協賛をいただきました。亀石倫子さんには、大変お忙しい中、当会のために大阪から駆けつけて頂きました。

また、開催にあたり多くの方よりご寄付を頂戴致しました。厚くお礼申し上げます。

平成29年度【第61回事業年度】決算 平成29年4月1日～平成30年3月31日

科目	予算	実績		
		金額	金額/中計	合計
# 当期収入(A)	¥1,273,000			¥1,412,924
1.1 定常収入	¥760,000		¥987,923	
1.1.1 年会費	¥300,000	¥442,000		
1.1.2 寄付金	¥250,000	¥395,923		
1.1.3 広告代	¥180,000	¥120,000		
1.1.4 助成金	¥30,000	¥30,000		
1.2 事業収入	¥510,000		¥425,000	
1.2.1 総会	¥273,000	¥252,000		
1.2.2 同善会	¥240,000	¥173,000		
1.3 その他収入			¥1	
1.3.1 受取利息			¥1	
# 当期支出(B)	¥1,816,700			¥1,521,618
2.1 ウェブ・会報(事業計画3.4)	¥548,500		¥441,059	
2.1.1 ホーム・ページ	¥75,000			
サーバ関連	¥25,000	¥22,248		
HP更新	¥50,000	¥61,560		
2.1.2 会報	¥473,500			
デザイン・印刷	¥400,000	¥288,776		
封筒・宛名ラベル	¥17,500	¥2,815		
送料	¥56,000	¥65,660		
2.2 事業(事業計画1.2)	¥728,200		¥764,181	
2.2.1 総会	¥480,000			
宴会費	¥300,000	¥262,172		
招待・お土産他	¥180,000	¥194,702		
2.2.2 同善会	¥248,200			
宴会費	¥230,000	¥175,088		
2.2.3 案内状作成費・他	¥36,400	¥36,484		
2.2.4 送料	¥71,300	¥95,735		
2.3 事務局関係費	¥130,000		¥56,378	
2.3.1 事務局費	¥20,000	¥8,402		
2.3.2 会議費	¥100,000	¥44,656		
2.3.3 雑費・予備費	¥10,000	¥3,320		
2.4 連携事業	¥410,000		¥260,000	
小樽事務局費	¥30,000			
会議出張費	¥90,000	¥90,000		
雑費・予備費	¥30,000			
調査報告費	¥30,000	¥30,000		
母校職員招待費	¥50,000	¥50,000		
OBOG母校講演支援	¥180,000	¥90,000		
当期予算収支差額(C)=(A)-(B)	▲543,700			▲108,694
前期繰越額	¥870,741			¥870,741
次期繰越収支差額	¥327,041			¥762,047





同釜会(おなかまかい)報告

同じ釜の飯を食べ、親睦を深める忘年会として2014年より始めた同釜会(おなかまかい)も今回で5回目。12月最初の日曜日に、横浜中華街の『揚州飯店本店』の5階フロアを貸し切って、開催されました。46期から73期までの総勢24名が参集し、中華料理と飲み放題を満喫しました。

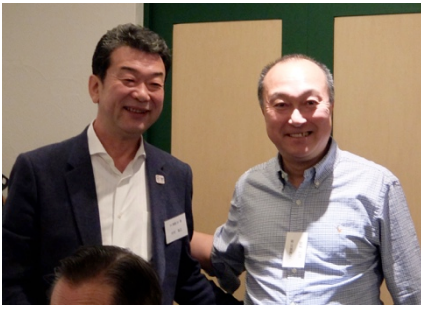
同釜会は、今 日出夫さん(67期)の司会で始まりました。初めに、6月の総会以降に亡くなられたお二人の同窓生のご冥福をお祈りして黙祷をおこなったのち、上野 淑子さん(47期)、福井 早枝子さん(65期)の音頭で、校歌を斉唱しました。佐々島 宏 会長(65期)の開会挨拶に続き、文部科学大臣政務官としてご活躍中の中村裕之衆議院議員(73期)から、政務の様子や小樽の様子など、ユーモアを交えたご挨拶を頂きました。

小樽会会長の清水川 治二さん(52期)の乾杯のご発声を合図に、3卓に分かれたテーブルを囲んで、歓談、交流が行われました。

歓談の合間に、今回初参加の広瀬 清さん(65期)、学生時代以来久々の参加となる成瀬 弘徳さん(73期)を始め、多くの方々から近況報告を頂きました。また、上野 淑子さんには、美声を披露して頂きました。歌は「オー・シャンゼリゼ」です。

飲み放題で盛り上がる中、あっという間に時間となり、恒例となった参加者最年長 46期の布施 市蔵さん、島 雄一さん、本間 佳さんの一本締めで、閉会となりました。

美味しい料理とお酒、気兼ねないおしゃべりの、楽しいひとときでした。



『私は今』 近況 1 (平成 30 年 6 月の総会案内時の近況連絡より)

【35 期】**村住 恒雄**(小平市) 元気で暮らしておりますが、高齢のため、足腰が弱り、外出を控えております(99 歳)。御盛会をお祈り致します。

【36 期】**千葉 誠一**(下野市) 今年 95 歳になりました。眼がかすみ、足が弱くなりましたが、心は元気です。

【37 期】**田中 誠也**(柏市) 会誌 87 号で同窓の方が世界中で活躍されている様子を知り、嬉しく心強く思いました。潮陵万歳！ **中山 保人**(町田市) 近く 94 の齢を迎えれば、この駅前までもが難しくなり、せめて空想でも小樽のあの時代にと思います。パンジュウは未だ売っていますか？

【38 期】**乾 学**(我孫子市) 年相応の元気にて週 4 回グランドゴルフと、観光小旅行を時々楽しんでいます。当日、我孫子市のグランドゴルフ参加しますので欠席します。

【42 期】**田代 武雄**(藤沢市) 正常に生活しております。**一柳 卓生**(藤沢市) 主人は要介護 5 で寝たきりの生活を送って居りますが、同期の武石文樹様から毎月一木会でのお知らせを頂き、又、遠藤煥様は昔の主人との思い出を、時々、お手紙やお葉書を下さり、感謝の気持で一杯で御座居ます。(奥様より)

【43 期】**間所 一郎**(我孫子市) 高齢のため欠席します。小樽市の人口が北見市に抜かれ、道内 9 位になったとか、残念です。ご盛会をお祈り致します。

【44 期】**五十嵐 浩**(千葉市) 会報に掲載する程の事もなく、平穩に過ごしています。日々無事。 **小林 久俣**(世田谷区) 残念ながら旅行のため、出席できません。盛会を祈っております。 **道上 進**(中野区) 元気で卓球を楽しんでいます。 **本間 正和**(三鷹市) 相模原協同病院(620 床)院長、脳神経外科、退職後は自分の年齢の可能な範囲内で老人関係の仕事をしております。 **吉原 秀**(中野区) 体調不良のため欠席致します。87 歳になりますと、足、腰弱り、丈夫なのは口だけ？

【46 期】**川越 重義**(横浜市) 所用の為、残念ですが欠席します。俳句に絵にと、老後を元気に過しております。ご盛会を祈念いたします。 **本間 佳**(横浜市) お陰で 86 歳になりました。90 歳越えを目指して元気を養いたく思っています。 **村守 清**(横浜市) 私は元気で、家内の介護の毎日です。 **森 徹**(流山市) 元気で過しています。相変わらず、ゴルフや囲碁の教室など続けています。 **渡辺光三郎**(横浜市) 体調不良のため欠席致します。会員皆様のご健康を祈念いたしております。

【47 期】上野 淑子(横浜市) 横浜カンツォーネを歌うのコンサートで、二曲歌って来ました。もう少し楽しみを続けましょう。佐々木 信(市川市) コンサルタントをやっております。建設関係が主です。松村 嘉夫(新宿区) 一昨年、久方振りに小樽を訪れました。港の周辺で、子供のときの草野球を楽しんだことを思い出し、ホロリとしました。藤川 五百子(杉並区) 年を重ねますと、出掛ける事が“オックウ”になり、欠席させていただきます。ご盛会をお祈り致します。

【48 期】照井 義弘(日野市) 元気でおります。都合により欠席します。ご盛会を祈ります。所 ヨリ子(山形市) 出席できず残念です。思い出の多い会であります様に(骨折をしましてリハビリの毎日です)。吉田 洋三(三鷹市) 83 歳になったから遠くまで行けないので、失礼させていただきます。

【49 期】高井 賢治(さいたま市) 昨年、年初に転倒、即入院 100 日間。その後、体調回復せず、老人ホームに入所しました。外出まなまりません。田中 穰二(前橋市) 平成 28 年 10 月から足を痛め最初はあまり歩けなかったのですがリハビリを続け少しづつ歩けるようになりました。

【50 期】蛸島 義弘(入間市) 健康に感謝！マイペースで過ごしております。

【51 期】荒野 義郎(松戸市) 特に変りなし。上諏訪一明(川崎市) 半月板の損傷後、階段の昇降に難渋しています。盛会を祈念しております。野田 徹(さいたま市) 今年 80 歳になりますが、まだ元気です。仕事は去年やめました。ボクシングは 20 年をすぎました。原 絢一(さいたま市) 今年、80 歳になります。ほとんど毎日卓球を楽しんでおります。中野 政一(茅ヶ崎市) 六月墓参り小樽へ帰省します。盛会を祈ります。

【52 期】竹尾 昌己(札幌市) 参加した昨年を懐かしく思い出しております。盛会を心から祈念いたします。清水川 洽二(取手市) 毎月第二木曜日同期 14~15 名が有楽町の“レバンテ”に集まり、お互いの健康を確認しあい、おしゃべりの花を咲かせております。内山 邦昭(春日部市) 一昨年、40 年前の静脈注射にて C 型肝炎ウィルスに感染してしまった家内を亡くしました。形見のマルチーズ(マロン、雄、12 歳一人間ですと 64 歳)と、隣の生協を頼りにボランティア活動(粕壁宿案内)、趣味のビデオ撮影・編集、アマチュア無線と忙しくやっております。気持ちだけ参加です。

【53 期】玉置 一男(上尾市) ささやかながら 水泳・サイクリング・森林浴、防災の仕事、生活と栄養のセミナー(認知症・糖化等)に参加しています。Dr シャクリーの理念に共鳴しています。堀内 昭忠(春日部市) 4 ヶ月前予約の検査入院。年末には、元気な姿で参加します。松原 諄也(府中市) 政局を楽しんでいます。佐味 喜美(川崎市) 今回は欠席させていただきます。近況としては、年の割には元気かな？と思っています。週 1 回のグランドゴルフも楽しんでいます。鷺巣みち子(さいたま

市) 元気に過ごしておりますが足が弱くて出席できません。皆様によろしく。

【54 期】岩井 宏輔(渋谷区) この年令になって、この世の三大ウソつきは政治家、サギ師、頭のイカレタ役人と解りました。その点、私は少しノータリンです。都留 正昭(横浜市) 横浜近辺に住む同期の仲間と時々会って食事をしたり、ハイキングを楽しんでいます。体調が良ければ、来シーズンはスキーにも一緒に行きたいと思っています。永野 茂(流山市) 悠悠ではありませんが自適の生活です。月に 1 回の小樽時代の仲間とのタベリ、年に 1 回の小樽訪問。潮陵を含め小樽はいつも身近にあります。藤田 幸久(横浜市) 今年喜寿になりますが、元気にすごしています。Amazon Kindle Book(電子書籍)に 29 冊発表しています。趣味の著作を楽しんでいます。

【56 期】是安 克彦(掛川市) 近々、只見線と山田線(盛岡-宮古間)を乗る予定で、これで全国の JR 在来線は全線乗ります。(新幹線は長野-金沢間のみ乗っていません)。加藤 義雄(上尾市) 5/16 品川 TKP ガーデンシティで同期会が予定され、道内や地方からも 20 名弱上京される予定です(56 期会)。鈴木 忠昭(守谷市) 今年から後期高齢者です。健康に気を使いながらすごしています。高橋 餃子(那須町) 点訳ボランティアを平成 12 年より続けています。潮陵卒ではないのですが、愚息がゲームクリエイターをされていて、5・6 年前に MoMa ニューヨーク近代美術館に作品「魂塊」が収蔵されました。来年はジョージア州の Telfair Museum で 1 月末から半年間展覧会が開かれます。彼方にお出かけの方は是非ご覧ください。

【57 期】太田 泰史(横須賀市) 5 年前から脊柱管狭窄症に見舞われ、手術を回避し投薬治療による延命を続けています。来年は喜寿(77 歳)を迎えます。平均寿命まであと一息ですね！真部 英夫(前橋市) 心臓弁膜症になり、前橋日赤病院にて治療しております。医師より遠出は無理との事ですので、欠席させていただきます。久松 顕子(川口市) 年に 1~2 回、同期会(いんでない会)に参加し、旧交を温めつつ生存を確認する年齢になりました~!!

【58 期】松岡 厚(越谷市) お陰様で元気に税理士業務を行っております。ご盛会をお祈りいたします。

【59 期】齋藤 健三(宇都宮市) 一応元気で、相変わらず、ゴルフ、コンサート、観劇等楽しんでいます。

堀 喜久子(秦野市) 旧姓 松田です。在学中は、合唱部に属していました。職業は看護師です。現在の趣味は「城めぐり」と「旅」です。

【60 期】加藤 輝雄(入間市) スキー部マネジャー、銀行員退社

【61 期】梅村 勝(練馬区) 今年度、所属する会の 3 年に一度の「合祀慰霊祭」と重なり、欠席します。盛会を御祈り致します。北村 俊昭(狛江市) 相変わらず出張が多い仕事です。牧野 年(さいたま市) お陰様で大過

なく過ごしています。高張 賢一(入間市) 山岳部にいました。今も時々山歩きをしています。土屋 明重(上田市) 昨年、母が亡くなりました。小樽から上田へ来て10年目。一緒に暮らし、享年92歳の生涯を終えました。

檜見館 芳郎(船橋市) 定年退職後、船橋シニアアンサンブルにギター奏者として参加して3年になります。定期演奏会、慰問演奏会等で忙しくも楽しい日々を送っています。

【62期】前野 一男(千葉市) 3月末で室蘭工大・千葉大学・木更津高専と続いた国立高等教育機関の教員生活を定年退職しましたが、4月より日本工学院専門学校・同八王子校の校長を兼務して勤めて居ます。忙しさは相不変です。

【63期】佐竹 茂市郎(立川市) ボランティア活動で忙しい毎日です。渡辺 裕子(茅野市) 換気扇掃除をしていて、ガス台の上から落ちて腰椎圧迫骨折してしまいました。さいわい歩くのに支障ありませんが、若くはない、と年令を感じさせる出来事でした。皆様もお気をつけて…。

【64期】佐々木 聡(春日部市) 一昨年、長年勤務したSMBCコンサルティングを退職し、主に研修アプローチを中心とした能力開発、組織開発のコンサルタントとして独立しました。おかげさまで順調にやっています。また、昨年7月からクライアント企業の社外取締役を兼任しています。苫 孝二(渋谷区) 今回たいへん残念ですが、東日本大震災被災地の福島県南相馬市などの支援活動のため出席できません。皆さんによろしく。

【65期】近藤 寛希(府中市) 年1回の総会、大事にしていきたいですね。3月で65歳になり、完全退職しました。今は資格試験取得のため、勉強中です。健康のため今後は仕事もする予定です。田村 類(大津市) 化学クラブに所属しました。緑小学校と西陵中学校出身です。広瀬 清(狭山市) 昨年直近6年間のベトナム勤務を終えて帰国。65年間の会社人生に一区切りつきました。戻ったら戻ったで家族や親類の介護や家事、マンションの自治会・管理組合業務などお膝元の事柄も結構多忙です。これまで外部に傾注しておりましたので後年は内輪の方にも目を向けていきたいと思います。定時総会には出席できませんが、当日の盛会を祈念しております。

【66期】山崎 信行(千葉市) 元ヨット部(インターハイ出場)。趣味テニス。現在、生鮮産直品流通ベンチャー役員。

【67期】植木 由紀子(千代田区) 2月に初孫誕生。新生児の可愛さに目を細める日々です。今 日出夫(横浜市) 63歳で再任用国家公務員(東京国税局)を離職し、初めて民間会社に就職しました。永和監査法人という上場企業等の会計が正しく表れているか確認する仕事を

している法人です。その法人の事務をすることになりました。今後ともよろしく願いいたします。潮陵時代は、軟式テニスでしたが、現在は週2回バドミントンを行っています。元気です。

【69期】柏倉 恵造(足立区) 霞が関トラベル契約社員2年目です。

【72期】広田 直行(千葉市) オール日大の会議のため欠席とさせていただきます。白鳥 雅裕(横浜市) 昨年夏から始めた男性コーラスの指揮をさせて頂いています。生憎、指導している先生のコンサートがあるため、出席できません。滝谷 元(鴻巣市) 毎月2回程、中央大学父母連絡会(私は中大卒ではないのですが)のメンバーで、戸田漕艇場でボートをたのしんでいます。

【73期】石坂 直美(三鷹市) 季節の良い週末は、仕事の依頼が入る事が多く、この度も残念ながら、欠席致します。仕事柄、お産の予定日が近い方がいらっしゃる予定が立ちにくいので今回は失礼を致します。再来年は当番期のようなので、協力出来ますよう、善処するつもりです! ご盛会をお祈り申し上げます!! 中村 裕之(千代田区) 昨年10月の総選挙において、3期目の当選をさせていただきました。元気に国政の場で働かせていただいています。山下 眞毅(三鷹市) 高校時代は軟式野球部、大学で準硬式野球部。銀行勤務を経て、現在は建設業(ビル工場空調・自動車塗装エンジニアリング)で、コンプライアンスを担当。大町 宏志(昭島市) おかげ様で十ヶ月足らずの仮転居の後、外資系ファンドに売却されたという旧雇主に本転居しました。一人暮らしを始めて、初めて自治会に加入したところです。

【74期】和田 一男(渋谷区) 在学中はサッカー部主将。小樽商科大学体育会サッカー部卒業 株式会社リクルート入社。株式会社ブレインパートナー設立、代表取締役。経営コンサルティングを行っています。

【82期】石井 輝(文京区) 4月に転勤で東京を離れます。残念ですが欠席とさせていただきます。

【86期】高橋 亜希子(練馬区) 初めて出席させていただきます。現在、不動産投資・運用事業を行う外資系企業に勤務しています。在学中は料理部に所属し、現在の趣味も料理です。

【108期】高橋 伶生(相模原市) 高校時代はサッカー部に所属。現在は北里大学医療衛生学部の3年生。中村 朋暉(国立市) 今年の3月に一橋大学法学部を卒業しまして、今現在は一橋大学法科大学院で院生をしています。今年23歳になります。高校時代は、野球部に所属していました。趣味は、野球観戦です。もちろんファイターズファンです。渡邊 健吾(横浜市) 神奈川大学を卒業後、さらに教育について学ぶために玉川大学に今年から編入いたしました。

『私は今』 近況 2 (平成 30 年 12 月の同釜会案内時の近況連絡より)

【43 期】林原 隆一郎(横浜市) 所用あり欠席します。平成最後の同釜会、盛会を祈ります。山口 保(世田谷区) 去年より膝を痛めて歩行困難の為、欠席します。もっぱら読書で過ごしています。

【46 期】川越 重義(横浜市) 毎回ご案内を頂き、所用の為、出席出来ず残念に思っておりましたが、今回も先約があり欠席の已むなきに至りました。残念至極です。ご盛会を祈ります。本間 佳(横浜市) 左膝関節を人工関節に置換手術を受けました。普通に歩ける様になり、気分も行動も前向きになりました。工藤 孝友(札幌市) この度はスケジュール多忙にて、欠席させていただきます。次回は必ず出席します。ご盛会を祈念申し上げます。皆様によろしく。村守 清(横浜市) 85 歳になりましたので、元気ですが引退させていただきます。森 徹(流山市) 元気に過ごしています。健康ゴルフを楽しんでいます。そのうち、エイジシュート成るかも知れません。渡辺光三郎(横浜市) 同釜でも我々が最高齢になってしまいました。比較的元気に過しておりますが、今回は所用のため欠席します。皆様のご健康とご幸福を祈念いたしております。

【47 期】杉山 桂子(中央区) ご案内ありがとうございます。右足骨折のため(脛骨)治療中のため、欠席させていただきます。寺澤 昌子(目黒区) 楽しい時間をお過ごし下さいますことをお祈り致します。眼の手術を受けました。回復が遅れているため、ギリギリまで待ちましたが残念です。藤川 五百子(杉並区) 幹事御苦労様です。さすが 80 歳はボーダーライン。83 歳になりますと、遠出に自信がなく、欠席させて頂きます。御盛会をお祈り致します。宮本 和明(大和市) さて、小生 大学のクラス会の合い間に、愛飲のウキスキー山崎 12 年・18 年と響 12 年・17 年の故郷を訪ねるべく、6 月 18 日早朝 JR 山崎駅のウキスキー樽を利用したベンチの待合室で休憩中、突然ベンチが突き上げられ天井が波打つ衝撃波、7 時 58 分 大阪北部地震に遭遇。予約見学会は敢無く中止、無念。即、妻と会幹事にメールと電話。駅舎で情報収集の 4 時間、電車復旧の見込み立たず、バスも 1 時間 1 本 長蛇の列。暑いさなか 京長岡へ徒歩 2 時間 35 分、乗り継ぎバスで京阪淀駅経由で京都岡崎のホテルへたどり着く。計 6 時間余の徒歩・バス・電車の貴重な小旅行を体験。会の参加者も半減。困難の中 更なる結束を固めたクラス会でした。山口 悦子(国分寺市) 遠くの外出が困難になりました。欠席させていただきます。

【48 期】村上 締子(中央区) 何時もお通知をありがとうございます。申し訳ございませんが、身体が不調子の為、欠席させていただきます。

【50 期】蛸島 義弘(入間市) 健康第一！で過ごしてお

りますが、膝、腰など痛んで来ました。八十の壁ですかね。

【51 期】浅木 晃(さいたま市) 80 歳です。毎日 1 時間近くのウォーキングをしています。ゴルフが楽しみです。上諏訪 一明(川崎市) 10/23 潮陵 7 期(当年 80 歳)関東同期会を開催。36 名(北海道 6 名)が青春時代の話に熱中しました。佐々木 允明(横浜市) 4 月に膵臓ガンの摘出手術を実施し、現在自宅において抗癌剤内服による抗ガン治療中ですので、欠席させていただきます。谷口 勲(町田市) 年相応に元気に暮らしております。中野 政一(茅ヶ崎市) 腰痛の為、欠席します。御盛会を祈ります。野田 徹(さいたま市) 最近は大変ゴルフにも精を出しています。原 絢一(さいたま市) 12 月で 80 歳になります。毎日、卓球を楽しんでおります。水上 眞吾(狛江市) 相変わらずテニス・囲碁で年を重ねています。平凡に平凡に。

【52 期】清水川 洽二(取手市) 来年 6 月、朝里グレースホテルで“傘寿を祝う会”を開催予定です。“喜寿を祝う会”では 100 人集まりましたが、来年は何人集まるか(?)

【53 期】玉置 一男(上尾市) 防災に携わって、赤羽に通勤しています。佐味 喜美(川崎市) 78 歳 まだまだ元気で居ります。

【54 期】小川原 康文(鎌ヶ谷市) 9 月小樽へ墓参りに行き、都通りを歩き、藪半で蕎麦を食べ、懐かしくなりました。藤田 幸久(横浜市) 元気に過ごしています。創作活動は続けています。今年 5 冊書き上げ、ミステリー、エッセイ、歴史物語など合計 31 冊になりました。Amazon Kindle Book(電子図書)に発表しています。小西 良蔵(さいたま市) 家族の容態が思わしくなく、入院まではいかない迄も、週 2 日通院しています。今回も欠席させていただきます。

【56 期】是安 克彦(掛川市) 5 月に 56 期の同期会で、築地場外市場や水上バスなど、初めて乗ったり見たりしました。加藤 義雄(上尾市) 体調が今一步につき欠席させていただきます。ご盛会をお祈り申し上げます。今年 5 月東京品川で同期会やり、道内からも集まり盛会でした。

【58 期】内山 一彦(横須賀市) ボランティアで鎌倉と横須賀の山林の手入れをしています。堀米 昇士朗(鳩山町) カンボジア在住です。

【59 期】竹内 美恵子(江東区) 当日、旅行中のため欠席いたします。今年も老人福祉施設で看護師をしています。人材不足のお役に立てるなと思っています。齋藤 健三(宇都宮市) 毎年変わり映えのしない近況報告ですが、一応元気にやっています。特段仕事はして

おらず、月 2～3 回の健康ゴルフとコンサート、歌舞伎、演劇等を楽しんでいます。堀 喜久子(秦野市) ご案内ありがとうございました。他用のため参加できず残念です。盛会をお祈りしております。余談ですが、同じ会場で、今年 5 月に菁園中学時代のクラス会を開催しました。小樽からの参加者 3 名を加えて、おいしい料理とともに楽しい時間を過ごしました。居心地のよいお店です。

【60 期】柳田 眞典(葛飾区) 60 期同期会では 10 月に安芸宮島旅行を行いました。

【61 期】梅村 勝(練馬区) 10 月 20 日東京で同期会に参加。同期・同窓の会は楽し。特に事務局有難う。牧野 年(さいたま市) 会社勤めを卒業しました。身体機能は年相応に不都合な事が多くなって来ましたが、大過なく過ごしています。盛会を祈念しております。

【62 期】武田 立(品川区) 同期卒 50 周年を小樽で開催、95 人集まりました。運河クルーズが良かったです。

【63 期】佐竹 茂市郎(立川市) 色々なボランティア活動をしていて、本業より忙しいです。

【65 期】広瀬 清(狭山市) 昨年より年金生活の自由人。家事中心の生活もそれなりに多忙。女房に対してのサラリーマン時代のお返しで余生を尽くす予定。

【72 期】白鳥 雅裕(横浜市) 今年から現場が羽田空港国際線ターミナルになりました。さて昨年参加している男声合唱サークルで初めての定期演奏会を開催し

ました。私は指揮と Bass を担当しております。そのために日曜午後は練習があるため当日は参加する事が敵いません。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。滝谷 元(鴻巣市) 72 期は今年卒業 40 周年となりました。小樽、東京で同期会開催しました。当方、皆元気でよかったです。前田 弘子(文京区) 先月(9 月)恵比寿で 同期会(昭和 53 年卒)があり初めて参加しました。皆 元気でした。次回時間が出来たらおなかま会参加いたします。

【73 期】清水 俊之(さいたま市) 新参者の清水です。おなかま会楽しみにしてましたが急遽予定が入り残念ながら欠席させていただきます。中村 裕之(千代田区) 10 月 2 日に発足した第 4 次安倍改造内閣において文部科学大臣政務官に就任致しました。

【81 期】福田 洋(中央区) 順天堂大学総合診療科にて予防医療に携わっております。業務の為、欠席いたします。御盛会をお祈りしております。

【95 期】岩間 世界(熊本市) 12/2 は所用があり、今回の同釜会 2018 は欠席させていただきます。東京には共同研究などで、小樽には子ども達に実験や工作を教えるために、行き来しています。熊本では、同僚の先生方に恵まれ楽しく過ごしています。また来年の総会には出席したいと思います。

訃報 謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

佐藤 精一	(35 期)	平成 29 年	山内 弘道	(42 期)	平成 30 年 1 月	瀬戸 邦彦	(51 期)	平成 29 年 10 月
橋本 是	(35 期)	平成 29 年 7 月	伊藤 公夫	(43 期)	平成 30 年 4 月	依田 忠	(52 期)	平成 29 年 5 月
永井 一男	(39 期)	平成 30 年 4 月	松塚 幸司	(49 期)	平成 29 年 8 月	竹内 晃	(54 期)	平成 30 年 9 月
新津谷 哲	(35 期)	平成 29 年 11 月	佐藤 嘉能	(50 期)	平成 27 年 12 月			
田村 光三	(40 期)	平成 30 年 2 月	河西 輝夫	(50 期)	平成 27 年 11 月			

(平成 29 年度総会後に訃報のご連絡を頂いた方々)

学校短信

東京潮陵樽中会会報「潮陵」第 15 号の発行に際し、母校の近況についてお知らせします。

9 月 6 日 7 日は、胆振東部地震に伴う停電により臨時休校となりましたが、校舎・生徒に大きな被害はありませんでした。全般的に、生徒は落ち着いた生活を続け、勉強に部活動に頑張っています。

【全日制】

平成 30 年 3 月に 112 期、223 名が卒業しました。

進路実績としては、現役では北海道大学 10 名、小樽商科大学 13 名、北海道教育大学 21 名の他、一橋大学、東京

北海道小樽潮陵高等学校長 片岡 晃

外国語大学、新潟大学を含めて、国公立大学に 82 名の現役進学者を出し、例年並みの成果でした。北海道大学も現浪合わせて 26 名合格と、例年並みでした。私立大学については、明治大学、法政大学、早稲田大学などに 75 名が進学しました。なお、最も多く合格者が出たのは北海道科学大学、次いで北海学園大学でした。

第 71 回潮陵祭は、“Novelty～殻を破るときは今～”をテーマとして、7 月 6 日～8 日の 3 日間にわたって行われました。サンモールでのパフォーマンスを多くの市民の方々に楽しんでいただいた仮装行列、食堂などのクラス企画やのど自慢、有志芸能の他、部活動の展示もあり、充実した学校祭でした。

同窓会から支援いただいているニュージーランド語学研修に、今年度は3年生の吉田祐理子さんと2年生の鹿内ひかるさんが夏季休業中に行ってきました。夏季休業後の全校集会での研修報告では、二人の流ちょうな英語に多くの生徒が感嘆しました。研修の成果を遺憾なく発揮した研修報告でした。

部活動も、例年と同等以上の活躍を見せています。体育系・文化系それぞれの実績は次の通りです。

体育系(大会毎)

高体連春季支部予選(11部全道出場):弓道部(男子団体優勝、男子個人1位、女子個人2位・3位)、柔道部(男子個人2位、3位)、テニス部(女子W2位、女子S2位・3位)、軟式テニス部(男子W2位)、卓球(男女団体優勝、男子S1位・2位、男子W1位、女子S1位・3位、女子W1位)、バドミントン部(男子団体準優勝、男子S1位・3位)、バレー部(男子優勝、女子4位)、バスケット(男子優勝)、陸上(男女総合優勝、個人15種目優勝)、山岳部(男子団体1位)、空手部(男子団体形2位)

高体連秋季支部予選:弓道部(男女団体優勝、男子個人2位・5位、女子個人優勝・2位)、バスケット(男子優勝)

高体連秋季全道大会:バスケット(男子ベスト16)、弓道部(女子団体初全道優勝:全国大会出場)

高野連支部予選:春季大会(対双葉高:2回戦敗退)、選手権大会(対北照高:決勝戦敗退)、秋季大会(対北照高:決勝戦敗退)

文化系(部活毎)

新聞局:4人の部員で発行を続け、全道高校新聞コンクールで34年ぶりに最高賞

吹奏楽局:高文連支部音楽発表会奨励賞、小樽市民会館で第32回定期演奏会

音楽部:高文連支部音楽発表会最優秀賞・全道大会参加、小樽市民センターマリンホールで第67回定期演奏会

箏同好会:高文連支部音楽発表会最優秀賞・全道大会参加

1年個人:全道文芸コンクールで優勝賞を得、全国高等学校総合文化祭出場権獲得

【定時制】

平成30年3月に、7名が卒業しました。その内、4年生は2名、三修制により卒業した3年生が5名、大学進学者は2名、就職者が4名でした。

平成30年度当初在籍は、1年9名、2年5名、3年6名、4年1名、合計21名でした。

1,2年生の宿泊研修は6月24日～25日に行われ、11名が参加し、定山溪ダムや円山動物園で研修しました。また、潮定祭は9月28日に行われ、クラス企画やカラオケで楽しみました。さらに、部活動については、久しぶりにバドミントン部が練習して地区大会に出場しました。

定時制はここ数年入学者が10名未満となっており、存亡の危機にあります。三修制や少人数指導のメリット、普通科教育により幅広い職業に対応する基礎学力を備えられることなどアピールし、来年度以降も存続できるよう努めているところです。



(全)卒業式 平成30年3月



(全)吹奏楽局定期演奏会



(全)体育大会チアパフォーマンス



(全)潮陵祭 仮装行列



(全)潮陵祭 書道パフォーマンス



(定)雪あかりの路

年会費納入と寄付・広告協賛のお願い／事務局より

東京潮陵樽中会は、昭和 33 年に発足以来、諸先輩、後輩の支援を得て 61 年目を迎える歴史と伝統を誇る広域関東圏在住者の同窓会です。小樽同窓会との連携、母校支援・同窓支援につながる活動の具体化を目指すとともに、本会の継続・発展のため若手会員募集に努めているところです。

本会の運営は会員諸氏の年会費 一般 2,000 円(75 歳以上無料)、学生 1,000 円と、寄付、広告協賛金によって支えられています。しかしながら、近年は、これらの収入が減少し、活動に支障をきたしています。

つきましてはこの現状をご理解いただき、75 歳未満の会員の皆様には、年会費の納入をよろしくお願い申し上げます。また、75 歳以上の会員の皆様にも、寄付金のご支援をお願い申し上げます。

納付方法ですが、次の(1)～(4)いずれかの方法で振込みをお願いいたします。なお、振込みの際、通信欄・連絡欄等には会費・寄付の別、卒期、e-mail アドレスを記入いただくと助かります。

また、広告協賛につきましては、事務局までご連絡をお願い申し上げます。

(1) ゆうちょ銀行の払込取扱票による振込み

- ① 払込取扱票の口座記号「00180-8-」
- ② 払込取扱票の口座番号「61069」を右詰で記入
- ③ 加入者名「東京潮陵樽中会」

(2) ゆうちょ銀行からの振替(記号番号で電信振替)の場合

- ① 送金先口座は「00180-61069」
- ※ 払込取扱票での口座記号末尾「-8-」は不要

(3) ゆうちょ銀行からの振替(店名で電信振替)の場合

- ① 店名は「ゆうちょ銀行〇一九(ゼロイチキユウ)店」
- ② 口座種別は「当座」
- ③ 送金先口座番号「0061069」

(4) 他の金融機関(ゆうちょ銀行以外)から振込の場合

- ① 銀行名は「ゆうちょ銀行」
- ② 店名は「〇一九(ゼロイチキユウ)店」
- ③ 預金種目は「当座」
- ④ 口座番号は「0061069」

払込取扱票		振替払込請求書兼受領証	
00	口座記号・番号はお間違えないよう記入してください。	振替払込請求書兼受領証	
00180-8	口座番号(右詰めで記入)	00180-8	
61069	金額	61069	
2000	東京潮陵樽中会	2000	
加入者名	東京潮陵樽中会	加入者名	東京潮陵樽中会
通	〇〇 ※会費、寄付等の費目を記入ください。	金額	2000
信	〇〇期(〇〇年3月卒) ※期あるいは卒業年月を記入ください。	おなまえ	山田 太郎
欄	000000@000000.00 ※お使いでしたら、e-Mail IDを記入ください。	依頼人	山田 太郎
・	〒000-0000	料	
ご	東京都〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	金	
依	おなまえ 山田 太郎	備	
頼	(ご連絡先電話番号) 03-0000-0000	考	
人	日 附 印		

関東に居住予定の卒業生の皆様へ／事務局より

東京潮陵樽中会では、新会員を募っています。進学、就職等で小樽を離れて関東地区に居住される卒業生の皆様には、是非、ご入会頂きたく、お願い申し上げます。当会ホームページ(<http://www.choryo.org/>)または E-mail (info@choryo.org)にて入会手続きをお願い致します。

また、本年6月8日(土)14時～17時に、東京都渋谷区のアイビーホールにて、定時総会・新会員歓迎会を開催します。新会員の皆様を大歓迎する会ですので、是非、ご参加ください。詳細は、3月にホームページに掲載します。

皆様のご参加をお待ちしています。

役員・幹事

役職	名前	卒業期	役職	名前	卒業期	役職	名前	卒業期
会長	佐々島 宏	全 65 期	幹事	永野 茂	全 54 期	幹事	広田 直行	全 72 期
副会長	今 日出夫	全 67 期	常任幹事	寺岡 恵美子	全 56 期	常任幹事	山下 眞毅	全 73 期
副会長	岸田 仁	全 67 期	幹事	間 利弘	全 58 期	常任幹事	和田 一男	全 74 期
監事	佐竹 茂市郎	全 63 期	幹事	稲澤 君夫	全 58 期	幹事	飯田 恵之	全 77 期
事務局長	南澤 孝夫	全 65 期	常任幹事	東口 豊	全 59 期	常任幹事	木戸 敬太	全 77 期
事務局次長	福井 早枝子	全 65 期	幹事	柳田 眞典	全 60 期	幹事	織田 めぐみ	全 79 期
事務局次長	近藤 寛希	全 65 期	常任幹事	高橋 昭	全 61 期	(連絡係)	鈴木 幸子	全 81 期
幹事	島 雄一	全 46 期	常任幹事	武田 立	全 62 期	常任幹事	柳原 文	全 82 期
常任幹事	上野 淑子	全 47 期	幹事	前野 一夫	全 62 期	常任幹事	佐々木 文雄	全 85 期
幹事	増田 裕二	全 48 期	常任幹事	橋本 明久	全 64 期	常任幹事	宮野 人至	全 86 期
幹事	六郷 民治	全 49 期	常任幹事	苫 孝二	定 64 期	常任幹事	小葉松 知行	全 90 期
(連絡係)	蛸島 義弘	全 50 期	常任幹事	滝沢 純	全 65 期	常任幹事	小島 綾乃	全 90 期
常任幹事	上諏訪 一明	全 51 期	常任幹事	南澤 孝夫	全 65 期	常任幹事	須永 いづみ	全 93 期
幹事	金栄 紘夫	全 53 期	常任幹事	山崎 信行	全 66 期	幹事	村上 文一	全 99 期
常任幹事	大浦 辰次郎	全 54 期	常任幹事	館山 恵子	全 66 期			

有限会社 チカラビル
有限会社 栄伸企画

代表取締役
 **上野 淑子**
(47期)

東京都千代田区神田小川町1-7
横浜市港北区篠原北2-13-12
TEL/FAX 045-421-6121

 調べる・較べる・並べる
株式会社 計

代表取締役会長 **佐々島 宏** (65期)

東京都世田谷区船橋1-38-6 ヒライビル2F
URL <http://www.kei-1980.co.jp>
TEL 03-6692-0845 FAX 03-6698-6943

住みよい街、暖かな人、
社会に育まれ いま明日へ

木材・建設資材・建設業
北海道ハウス シグマハウス  ショールーム

西条産業株式会社

代表取締役 西 條 文 雪 (65期)
常務取締役 西 條 公 敏 (97期)

本社/〒047-0006 小樽市有明町2番16号 TEL(0134)25-5011
札幌支店/〒065-0025 札幌市東区北25条東9丁目2-6 TEL(011)751-0101

 創業1950年の小樽老舗
甘納豆の中ノ目

十勝産 金時・小豆甘納豆 JAきたみらい産 白花甘納豆

中ノ目製菓株式会社

代表取締役 中ノ目 孝道 (65期)

北海道小樽市奥沢3丁目26番9号
TEL:0134-25-6000 FAX:0134-25-6002
<http://www.nakanome.com> mail:beans@nakanome.com

発行日 平成 31 年 3 月 発行人 東京潮陵樽中会 佐々島 宏(65 期) 編集人 南澤 孝夫(65 期)